



学校法人 佑愛学園
愛知医療学院短期大学

2014年度 —

学生と教員が共に前進する 授業評価レポート

2015/8/31

第 6 卷

2014

第6巻 授業評価レポート発刊に寄せて

授業評価レポートが完成しました。

毎年冊子としてまとめている理由は、学生が自分の講義を聞いてどう感じているかを知り、次回の講義の準備に活かすこと、が最も大きなものです。立派な冊子ですが、受け取って部屋の片隅に置いておくだけでは何の意味もありません。

昨今は、学生のアクティブラーニングが強く求められており、以前のような受け身の授業のままでは時代遅れと言わざるを得ません。すなわち、学生が主体的に学習に取り組むことができるように指導＝導くことが、国からの要請事項として求められ続けています。教員は学生が学習意欲を持ち続けられるように、内容を吟味して講義を組み立てなければならなくなってきました。これだけは覚えさせたい、という思いだけでなく、どうしたら覚えようとするだろうか、を考えた講義内容の工夫が求められているのです。その意味では、以前と違って教員にとっては創意工夫を凝らした授業の構成が必要です。このレポート結果をじっくりと眺め、次回からの講義内容を考える上での参考にして下さることを念じてやみません。

FD&SD委員会委員長

舟橋 啓臣

目次

■ 資料

1. 学生による授業評価アンケート設問項目
2. 学生による授業評価アンケートの回答方法
3. 学生による授業評価アンケートの実施要領
4. 学生による授業評価アンケートの実施要領

■ 授業評価レポート

1. 心の理解	5
2. 現代社会の理解	6
3. 情報処理	7
4. 外国語1(英会話)	8
5. 外国語2(韓国語会話)	9
6. 外国語3(中国語会話)	10
7. 英文講読	11
8. 現代語コミュニケーション	12
9. 人間関係論	13
10. レクリエーション	14
11. 健康運動とスポーツ	15
12. 生物と環境	16
13. 生命の科学	17
14. 教養演習	18
15. 人体触察法実習(PT)	19
16. 人体触察法実習(OT)	20
17. 生理学	21
18. 生理学実習	22
19. 運動学総論	23
20. 運動学I(頭頸部・上肢)	24
21. 運動学II(体幹・下肢)	25
22. 運動学実習(PT)	26

23. 運動学実習(OT)	27
24. 人間発達学.....	28
25. 一般臨床医学.....	29
26. 公衆衛生学.....	30
27. 臨床心理学.....	31
28. 内科学.....	32
29. 整形外科学.....	33
30. 神経学.....	34
31. 小児科学.....	35
32. 安全管理・救急対処論	36
33. リハビリテーション概論.....	37
34. リハビリテーション倫理(1年).....	38
35. 社会福祉学.....	39
36. 障害者スポーツ演習.....	40
37. 理学療法概論.....	41
38. 理学療法特論.....	42
39. 臨床運動学(PT)	43
40. 運動療法総論.....	44
41. 検査測定法・実習.....	45
42. 理学療法評価法.....	46
43. 理学療法評価法実習.....	47
44. 中枢神経系障害理学療法治療学.....	48
45. 中枢神経系障害理学療法治療学実習.....	49
46. 整形外科系障害理学療法治療学.....	50
47. 整形外科系障害理学療法治療学実習.....	51
48. 内部疾患系障害理学療法治療学・実習.....	52
49. 小児疾患系障害理学療法治療学.....	53
50. 小児疾患系障害理学療法治療学実習.....	54
51. 老年期障害理学療法学.....	55
52. 日常生活活動学・実習.....	56
53. 物理療法学実習.....	57
54. スポーツ障害理学療法学.....	58

55. 生活環境論	59
56. 地域理学療法学	60
57. 作業療法概論	61
58. 作業療法研究法	62
59. 臨床運動学(OT)	63
60. 基礎作業学	64
61. 基礎作業学実習	65
62. 作業療法評価法	66
63. 作業療法評価法実習	67
64. 身体障害作業評価学	68
65. 精神障害作業評価学	69
66. 発達障害作業評価学	70
67. 作業治療学理論	71
68. 作業療法治療学実習	72
69. 身体障害作業治療学Ⅰ	73
70. 身体障害作業治療学Ⅱ	74
71. 身体障害作業治療学実習	75
72. 精神障害作業治療学	76
73. 精神障害作業治療学実習	77
74. 発達障害作業治療学	78
75. 発達障害作業治療学実習	79
76. 老年期作業療法学	80
77. 日常生活作業学Ⅰ	81
78. 日常生活作業学Ⅱ	82
79. 日常生活作業学実習	83
80. 高次脳障害作業治療学	84
81. 義肢装具作業療法学	85
82. 義肢装具作業療法学実習	86
83. リハビリテーション関連機器	87
84. 地域作業療法学	88
85. 地域作業療法学実習	89

学生による授業評価アンケート設問項目

(2014年度)

設問項目

◇授業の内容について

1. 授業の内容は、あなたにとって、興味深いものでしたか
2. 授業の内容は、あなたにとって、理解しやすいものでしたか
3. 授業の内容は、シラバス（講義概要）に沿ったものでしたか
4. 授業の内容は、後輩にも推薦したいと思いましたか
5. シラバスは、理解しやすい内容でしたか

◇授業の方法について

6. 授業の進み具合は適切でしたか
7. 授業中の教員の声は、明瞭で聞き取りやすいものでしたか
8. 授業中のマイクの使用は適切でしたか（マイク使用した場合）
9. 板書（黒板）やモニター提示（パソコン）の量、文字の大きさ、書き方などは適切でしたか
10. プリントやビデオなどの補助資料は授業の理解を助けてくれましたか（補助資料があった場合）
11. 指定された教科書や参考図書、参考文献などの使用は適切でしたか

◇授業担当者について

12. 講義の準備を十分にしていたと思いますか
13. 意欲的に、熱意も持って取り組んでいましたか
14. 授業の開始時間、終了時間をきちんと守っていましたか
15. 私語など授業を妨げる行為に対して適切な対応をしましたか
16. 学生が質問したり、意見を述べられるような配慮がなされていましたか

◇あなたの授業態度について

17. この授業に対して熱心に取り組みましたか
18. 理解できない点などを質問しましたか
19. 予習、復習などの時間をとりましたか
20. この授業に休まずに出席できましたか
21. この授業に遅刻したり、早退せずに出席できましたか
22. シラバスに記載されている「学習到達目標」や「履修上の注意」を意識して学習に取り組みましたか

◇総合評価

23. この授業の総合評価を5段階（1. 最も悪い～5. 最も良い）でしてください

学生による授業評価アンケートの回答方法 (2014 年度)

科目名： _____ 担当教員名： _____ 記入日： _____ 月 _____ 日

◇それぞれの質問に次の5段階で回答し、マークシートに記入してください。

- ①そうは思わない ②あまりそう思わない
- ③どちらともいえない ④どちらかと言えば、そう思う
- ⑤そう思う

◇17～22の質問には次の5段階で回答し、マークシートに記入してください。

- ①できなかった・しなかった ②あまりしなかった
- ③どちらともいえない ④どちらかと言えばできた・した
- ⑤できた・した

◇自由記述

この授業で受けた感想を自由に書いてください

よかったと思う点

改善すべきだと思う点

アンケート内容で追加したほうがよいと思われる項目

学生による授業評価アンケートの実施要項

1. 実施目的

学生による授業評価アンケートの実施は、FD委員会規程にもとづいて行われ、アンケート結果を参考に授業の改善をはかり、本学教育の質の一層の向上に資することを目的とする。

2. 実施方法

2014年度開講科目を対象として、各授業単位でアンケートを実施する。

アンケートは、各教員が担当する授業科目で実施する。

アンケートは、各授業の最後の20分程度を利用して、学生代表が配布し、その場で回収後に封筒に入れ密封して教育研究推進課に届ける。

3. アンケート内容

- I. 授業の内容について 5問
- II. 授業の方法について 6問
- III. 授業担当者について 5問
- IV. 学生自身の授業態度について 6問
- V. 総合評価 1問
- VI. 自由記述（授業の良かった点、改善すべき点）

4. 調査結果の集計

調査結果の集計は、FD&SD委員会が行う。

5. 調査結果の配布

実施した専任教員および嘱託講師には、個人集計結果ならびに全学集計結果に成績平均点分布表を添えて配布する。

6. 実施結果の公表

個人集計結果を除き、全学集計結果を本学ホームページにて公開する。

2014年度
FD&SD委員会

学生による授業評価アンケートの実施要領

(2014 年度)

学生の皆さんへ

「学生による授業評価アンケート」への協力をお願い

FD&SD委員会

本学では「授業の質」を高めることを目的として、毎学期末「学生による授業評価アンケート」を実施しております。このアンケートが皆さんの成績評価に影響を与えることは決してありませんので、安心して率直な回答をお願いします。本学の授業を、より良いものにしていくために自分の意見を反映させるのだ、という気概を持って真剣に取り組んでいただきたく思います。実施を控え皆さんにご連絡すると共にご協力をお願い致します。

実施科目：

全科目・全クラス（但し、3年次演習、アドバイザーミーティング、卒業研究、学外実習、等 特別な科目を除く）

実施時期：

各科目の最終授業日（但し、最終日発表等が予定されている科目については、最終日の1週前の授業）原則として授業の最後に実施します。

実施方法：

「授業評価」実施にあたって、代表の学生にアンケート用紙の配布と回収をお願いすることにします。代表に選ばれた学生の皆さんには、お手数をかけますが、アンケート用紙を回収後、学生支援室教育研究推進課に届けてくださるようお願いします。

所要時間：

約 20 分程度

◆集計データ結果について

明確に話すことやわかりやすい説明をすること、整理された板書をする、使いやすいプリントを編集することなど、授業方法についての基本的な工夫が効果を上げている。

数値データに基づく円グラフを見ると、授業の方法についての項目6（進行）、項目7・8（声・マイク）、項目9（板書等）、項目10（補助資料）、および授業担当者についての項目12（授業準備）、項目13（取組み）、項目14（授業時間）、項目15（行為注意）などの評価が高くなっている。一方で、授業態度についての項目17（授業への取組み）、項目18（質問）、項目19（予習・復習）については、改善の余地があると思われる。実際に授業を行い、学生に接しての実感としては、二専攻合同の大規模クラスであるためか、学生個々のモチベーションに差があり、私語も少々気になる。私語などへの注意のために授業の進行がしばしば止まるがあった。上述の授業態度についての評価結果は、こうした問題を学生自身が自覚し反省しているためともいえるが、学生の興味と集中を持続させるためにはさらなる工夫が必要である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「わかりやすく楽しい」「興味ある内容」「おもしろかった」等の肯定的な記述が多くあり、担当教員が感じていたような私語が気になるクラスの雰囲気と、学生の受けとめ方とはやや異なる印象である。授業内容に反応して発言してしまうのなら、そのあたりをもう少し積極的に受け止めて、教員との双方向コミュニケーションやクラス討論を促進する働きかけをして行く必要があるかもしれない。

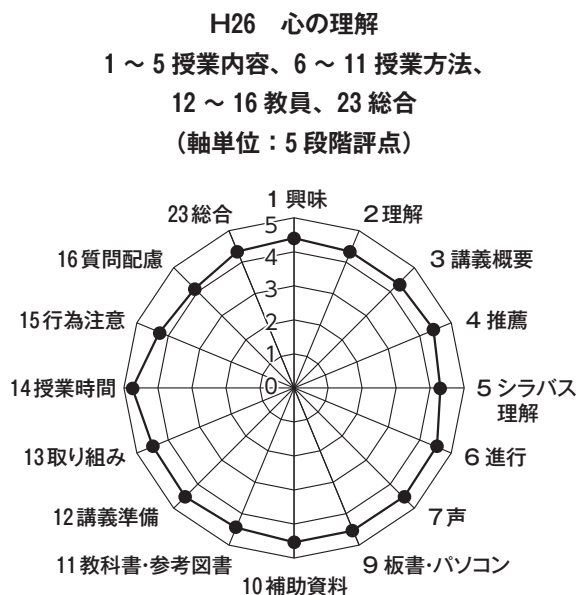
また、授業内容については、心理測定尺度の体験や実験的な要素を取り入れたものが強く印象に残ったようであり、大規模クラスのなかでもこうした要素を積極的に取り入れる工夫を持続したい。

改善すべき点と思う点については、ほとんど記述がなく、もう少しこの点について記述をするよう促すべきであった。

◆今後の改善に向けて

基本的には、現在の授業内容、授業方法が学生に受け入れられている結果であり、今後もこれを踏襲していく。しかし、「真剣に授業を受けているから私語がなく統制がとれている」というのは少し違う学生の雰囲気も受けとめて、「学生の自由記載の内容を検討した結果」でも述べたように、より積極的に学修意欲を引き出す工夫が必要となる。

教養基礎科目に対する学修意欲を引き出すために、将来の専門性や職務との関連について積極的に説明しているが、それだけではなく「教養」としての位置づけをいかに明確に示すことができるかも課題である。今後とも、より理解を助けるような教材を呈示し、内容の解説を工夫するなどとともに、折にふれて、課題への取組み方の助言を行い、積極的な予習・復習を促していきたい。



◆集計データ結果について

「1. 授業の内容は、あなたにとって、興味深いものでしたか」「2. 授業の内容は、あなたにとって、理解しやすいものでしたか」「6. 授業の進み具合は適切でしたか」「7. 授業中の教員の声は、明瞭で聞き取りやすいものでしたか」「8. 授業中のマイクの使用は適切でしたか」「10. プリントやビデオなどの補助資料は授業の理解を助けてくれましたか」「12. 講義の準備を十分にしていたと思いますか」「13. 意欲的に、熱意を持って取り組んでいましたか」「14. 授業の開始時間、終了時間をきちんと守っていましたか」という質問に対しては、「5. そう思う」という回答が6割を超えており、今後もこの傾向を継続できるよう努めたい。

その一方で、「9. 板書やモニター提示の量、文字の大きさ、書き方などは適切でしたか」「15. 私語など授業を妨げる行為に対して適切な対応をしましたか」という項目に関しては、「5. そう思う」の回答が4割に満たなかった。これらについては改善の必要があると考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

感想としての自由記述で最も多く見られたのは、「楽しい内容の授業だった」「面白い内容の授業だった」というものであった。次に多かった回答は、「初めて知ることが多くためになった」「社会の現状を理解できた」「将来に役立つ」「知識が増えた」等の、知識獲得に関するものであった。これらの記述は講義の目的と合致しており、意欲的に取り組んでくれたと嬉しく感じている。興味深い回答としては、「これからも受けたい」「また聞きたい」「授業を通して友達との仲が深まった」「眠くならなかった」等もあった。

よかったと思う点では、参加型授業というスタイルや、映像教材の使用を評価する記述が複数見られた。身近な具体例を挙げて説明を進めたことも、わかりやすいという評価につながっていると推測される。積極的に取り組めたという記述もあり、能動的な授業への参加が見て取れた。

他方、改善すべき点と思う点としては板書に関する記述が複数見出された。「もっときれいに書いてほしい」というものが多かったが、なかには「ゆっくり書いてほしい」という意見もあった。

◆今後の改善に向けて

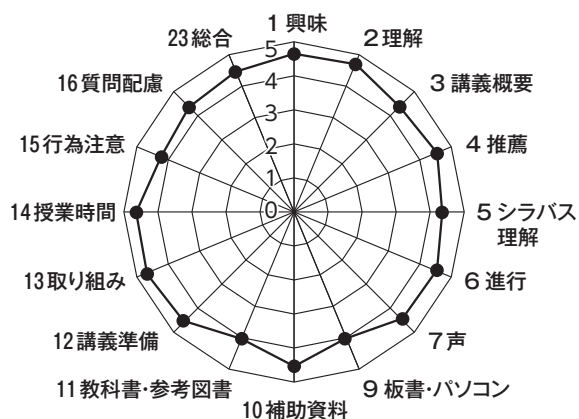
「集計データの結果について」で既に述べたとおり、「9. 板書やモニター提示の量、文字の大きさ、書き方などは適切でしたか」という設問に対する「5. そう思う」の回答は36.8%にとどまっていた。それに対し、「1. そうは思わない」が1.5%、「2. あまりそうは思わない」が16.2%に上っており、自由記述の結果と考え合わせると、板書に関する改善が必要である。したがって、今後は文字を丁寧に書くとともに、スピードにも留意するように努めたい。同様に、「15. 私語など授業を妨げる行為に対して適切な対応をしましたか」という項目についても、改善の余地があると思われる。参加型授業のスタイルと静穏な環境の保持を両立できるような工夫を検討していきたい。また、参加型スタイル、映像教材の使用、身近な具体例など、学生による評価の高かった事項については、さらなる質の向上に努力していきたい。

H26 現代社会の理解

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



担当教員

横田正恵

◆集計データ結果について

テキストや補助資料、準備状況は比較的良好な評価が得られている。一方、進行、行動注意、質問配慮がやや弱く、改善の余地がある。PC 実習では、授業のペースで進めない学生への配慮や、学生一人一人の様子を観察するなど、今よりも細かな配慮を心がけなければいけない。今後も更なる努力が必要である。

学生達は、1コマ1コマの授業を大切に受講し、教科書を見れば基本的なPC操作が出来るまで、しっかりと取り組んでくれた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

今年度より、新しいPC実習室設備となり、講師側が不慣れで操作に戸惑う事もあった。新しい設備は、教員画面が自分の画面に表示される機能など、学生には好評であり、授業理解に非常に効果的であった。学生の自由記述にもその旨が記されている。

PC実習では、これまでのPC操作経験が学生個人個人で大きく異なることが常々問題となる。

中学高校までにワープロや表計算ソフトの利用法に熟知している学生も含まれている一方、PCの操作経験が殆どなく、文字入力がおぼつかない学生もある。どこかにフォーカスを当てて授業を進めざるをえず、『大学や社会で必要となる一通りの基本操作をできること』を最大の目標として授業を行ってきた。

PC操作に慣れた学生からは、進度が遅い、説明が長い、等の意見があった。出来る人には、教科書の応用問題を自主的に進めてもらうよう、授業の進め方を変えていきたい。

Excelの内容を増やしてほしい、との意見があり、そのようにシラバス内容を検討する。

◆今後の改善に向けて

学生達と話をすると、高校までの情報系授業でPCが苦手になった、嫌いになった、PC操作が分からずついていけなかった、という学生が意外に多い。そうした学生には、PCの苦手意識を払拭し、好きになって貰えるように努力をしていきたい。美しい図を用いた資料作成を行う等、一人一人の独創性を活かしながら楽しく取り組める授業が実現できるように力を尽くしたい。ひとまず、授業時に、学生達の中を頻繁に巡回するなど、一人一人の進捗やつまづきに注意を払うことから試行しようと考えている。

本講義のように40名近い受講者に対しPCを用いた実習を行う場合には、助手や学生ティーチングアシスタントが補助する機会が多く、将来の検討が必要かもしれない。

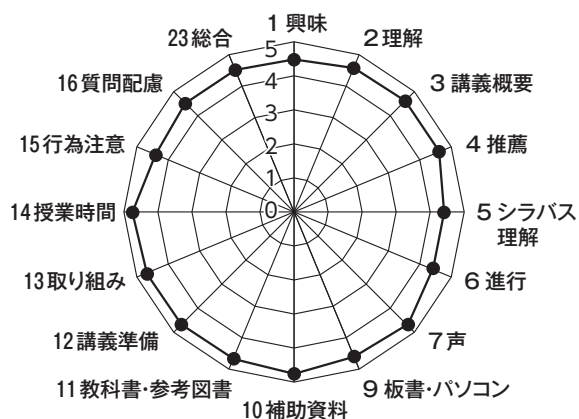
最近では、昼休み時間などにPC室で飲食をする、禁止であるコピー機能を使うなど、マナー違反が目立つようになってきた。PC室の利用マナーがしっかり伝わるよう、授業の中でも策を考えたい。

H26 情報処理

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



- ◆集計データ結果について
- ◆学生の自由記載の内容を検討した結果
- ◆今後の改善に向けて

“Gaikokugo I” is an English course for first year students which focus on oral fluency in English. This “Student’s Course Evaluation” is based on the evaluation by the students in the class.

One of the goals of this course was for the students to improve their English fluency. One student wrote 発表練習の時間を多くとったところ。“We had a lot of opportunities to practice our presentation in English”. While another student wrote 楽しく授業を受けれて、よかった。“I am glad that I was able to enjoy this class”. The majority of the students seemed to be satisfied with this class.

However, there is one area in the class lesson that I must look into to make the classes more beneficial for all of the students. There is a major concern that many students wrote about. It is the difficulty they may have had understanding the English used by the instructor. 全て英語だったので、難しかった。“because the instructions were in English it was difficult” and 何言っているのか、よくわからなかった。“I wasn’t too sure of what was being said”.

Maybe it would be better to make some changes in the teaching style to incorporate some Japanese into the instructions so that the students will have a better understanding of the assignment as a student requested, 少し日本語で、説明してほしい。

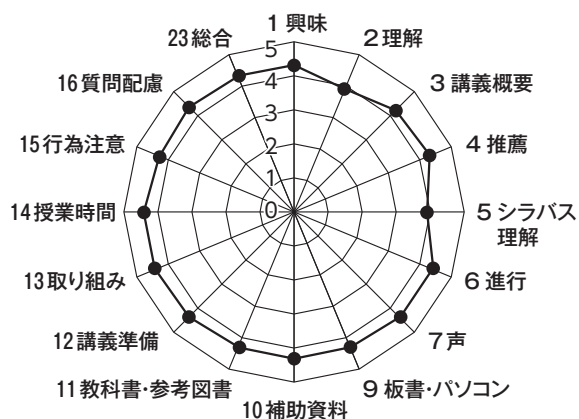
Over all, I am glad to get this feedback and appreciate the time and honesty of the students on the evaluation.

H26 外国語1 (英会話)

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



担当教員

金春子

◆集計データ結果について

学生たちが高い評価をしてくれて嬉しいです。私自身至らないところが多くある中で、4の評価はとても高いと思います。私は学生に授業として韓国語を教えたことがなかったので、難しい点がありました。昨年1回目の授業はとても戸惑いました。韓国語に関心を持つ学生とそうではない学生たちがいるので、まとまりがつかなく、授業が進むほどに、学生の間で理解の開きができてしまいました。また、授業をして、学生たちはハングルを組み合わせて読むことが難しいことが分かりました。ですから、当初予定していたシラバスの通りではなく、学生たちの呼吸に合わせてゆっくりペースで、ハングルを読むことに重点を置いて進めました。

今年は、昨年の経験で学んだことを参考に、ハングルと会話をしました。学生たちは会話を楽しんでいました。まだまだ未熟で、至らないところが多いですが、学生たちの意見を取り入れて、より良い授業をめざします。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

韓国語に関心を持って、すでに学んでいる学生がいて、韓国語の人気を感じます。

会話を多く学びたいと言う学生が何人かいました。会話は楽しく、すぐに覚えることができるので、これからも会話を多くしていきたいと思います。

ハングルが読めるようになって喜んでいる学生もいます。ハングルを読めるようになるには、学生たちがハングルの覚えなければならないので、時間と努力が必要ですが、わかる様になれば楽しく、独自で勉強ができます。

◆今後の改善に向けて

授業は“楽しく韓国語を学ぶ”をモットーに、ハングルを読めるようにすることを基本とし、教科書の進度をシラバスに沿って進めていきます。学生たちが期待している会話も多くしていきたい。

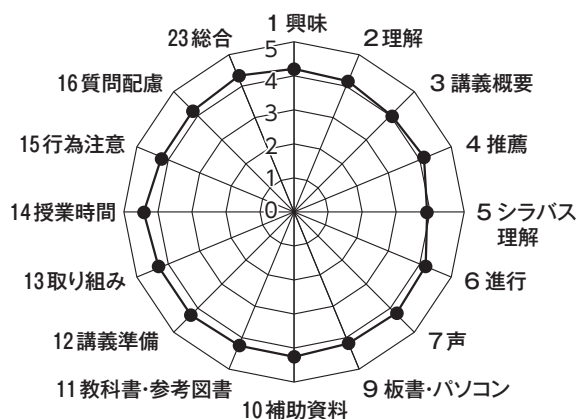
授業の中でCDをどんどん活用して韓国の流行歌謡曲を1曲歌えるようにしたいです。

H26 外国語2 (韓国語会話)

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

講義内容に概ね満足してもらえたことが伺え、こちらも一生懸命講義に取り組んだ甲斐がありました。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

中国語に慣れ親んでもらえるよう、中国現地事情の話を織り交ぜるなどして講義を進めたが、講義を通してある程度、中国語への興味が増してきたと思います。

◆今後の改善に向けて

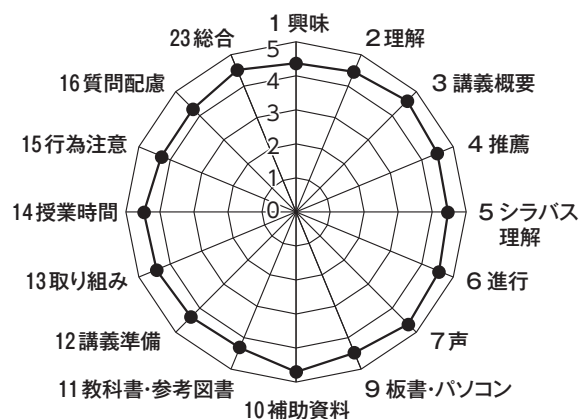
学生全員の中国語学力の一定の向上を図れるよう、理解の進んでいない学生にももっと目配りをしてキャッチアップできるようフォローをしていきたい。

H26 外国語3 (中国語会話)

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

総合評点は4であった。グローバル化の進む世の中で、英語は事実上の世界共通語として機能しており、とりわけ日本人は英語力の向上をもっと図らなければならないと言われている。本学の学生にも英語力の必要性を感じている者は多数いると思われるが、そのため日常的に多くの時間を英語学習に割いているという人は、残念ながら、ほとんどいないようである。専門科目の勉強に忙しく、そんな余裕はないということはよく理解できる。英字新聞（毎日ウィークリー）の記事を読むことは従来から行っているが、本年は特に症例報告の英文を中心に取上げた。これは将来の職業とも関連があるので、専門科目の日本語を英語で読む経験をするということになり、これまでより学生の集中度が高まったような気がした。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

臨床医学の英文報告を20分以上使って書き写し、日本語の部分訳を説明を聞きながら当てていくのは、とても疲れる作業で、「ひたすら書きつづけた」「しんどかった」という反応が多かった。これは、私語を少なくする副次的な効果も狙っており、最初から予想した通りの結果である。「勉強になった」と真面目にコメントしてくれる者もいたのは大変嬉しい。医学英文・時事英文を中心に取上げた結果、文法の基礎固めが手抜きになってしまった。数少ない機会ではあったが文法にふれた説明に関しては「よく分かった」と好評だったが、「もっと文法をやってほしい」という意見には応えていく必要がある。文法規則を忘れかけている自分に気づいた学生もかなりいたのではないかとと思われる。

◆今後の改善に向けて

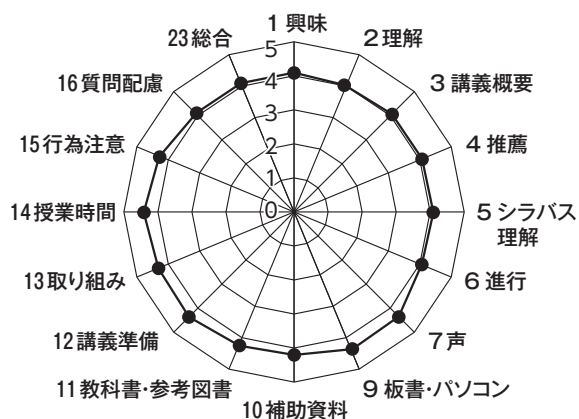
「もっと文法をやってほしい」という意見を無視することはできない。その要望には応えていく必要がある。ただし、文法規則をただダラダラと説明するだけでは、学生の集中が続かないので、前にもやっていた小テストを復活させ、クイズに挑戦するような感覚で、文法力のブラッシュアップをさせるのが良いのではないかと考える。その際、テスト問題の英文が医学に関連しているのが望ましいだろう。多くの大学で日本人や外国人の講師がDVDやCDを使った授業を行っているが、本学の学生にそれが適当であるとは思われない。英語の音声に直に触れることの重要性は訴えつつも、DVDやCDの利用は各自で行ってもらうよう呼びかけるにとどめ、ここでの講義は文章の読解力を養成することを第一に考えていきたい。

H26 英文講読

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

総合評価が3.8と出ているのは予想外である。学生の将来の志望とはまったく関係のない科目であり、出席を続けることだけでも苦痛だと思われる。しかも、講義の中身は、日本語による説明ではあっても、英語の割合が多く、さらには初等的な数学も含むものだった。それゆえ、授業内容の「理解」が3.5にとどまったのは当然の結果であった。授業方法については4強の評点がでており、学生に受け入れられたのは嬉しい。90分の時間をほぼ3分割して目先を変えるようにしたのが良かったのではないかと。教員のカテゴリーで「行為注意」が3.5と低めの評価だったのは、大教室の後ろの席でかたまって話をしている者たちを放置したと受け取られた結果だろう。反省点ではあるが、大声を張り上げて注意をしていた若い頃のパワーがなくなっており、「シーー」と幼稚園・小学校レベルの対応しかできていないのが今日このごろである。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「名前を聞いたことのある科学史上の人物（グレゴール＝メンデル、マリー＝キュリー、アルバート＝アインシュタイン）の生涯にもいろいろな苦勞があったことが分かった」という学生の反応は、普段の出席シートのコメントにもあらわれていたが、この講義の狙いがある程度達成されていることを示している。できれば科学上の業績の概要も理解してもらいたいのだが、これについては「難しかった」という意見が圧倒的である。ただ、それらの人物の業績が、現代人である自分たちの生活と無縁でない（遺伝子治療、放射能とX線検査、GPSなど）ことを知ったのは驚きだったようである。

担当講師は、受けない冗談を言ってひとりで笑うクセがあり、響感をかうことも多い。だが、この点に関してはおおむね「明るくて良い」という好意的な受け止め方をしてくれたようで、ホッとしている。

◆今後の改善に向けて

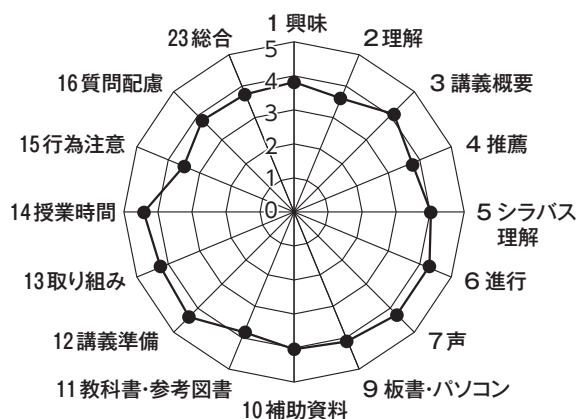
日本語によるコミュニケーションで難しいことの一つに「敬語」がある。本年は特に、高齢者に対して失礼にならないための最低限の敬語表現を身につけるよう注意をうながしたが、表面的なものにとどまってしまった感がある。ただ単にバカ丁寧な言葉を使っていれば良いというものでもないわけで、この方面の勉強を講師自身もさらに進めたいと考えている。また、従来から行っている英字新聞（毎日ウィークリー）の活用は、中学・高校の授業では読まなかった時事英文にふれるということで、継続したいと考えている。投票権が18歳以上となったことで、政治経済の問題にも今後は多く触れる必要がでてきたと思われる。評価の低かった「行為注意」について、自分の体力と相談しながら改善をはかっていきたい。

H26 現代語コミュニケーション

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

「授業内容」、「授業方法」、「授業担当者」および「総合評価」に関する全ての設問項目において、4～5の間の評価であったことから、相応の効果が得られたものとする。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「先生の話が楽しかった」、「プリントに基づき、多くの例を挙げながらの説明は非常に分かりやすかった」、「コミュニケーションのとり方や人間関係のあり方などを学習し、日常生活は勿論、将来の仕事に役立つと思った」などの記載から、学生が楽しく学習でき、その学習内容を十分に理解するとともに有用性も実感できたものと推察される。その一方で、「発表する時間が少なかった」との記載もあった。小生としては、全学生が発表できる機会を設けたつもりであったが、このような見解を有する学生もいたことに留意し、今後、配慮していく意向である。

◆今後の改善に向けて

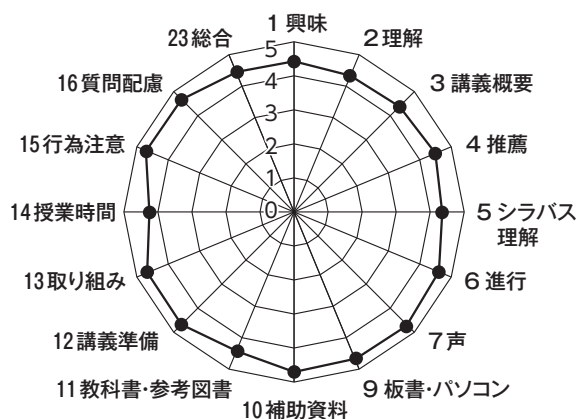
ワークショップなどで学生の質問や発表の機会をできる限り多く設け、学生の質問や自己表現をより一層奨励していく方針である。

H26 人間関係論

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

概ね集計グラフでは良好と思われる。特に入学時で、他の学生同士での交流が少ない時期でレクリエーションの特徴でもある。知らない人同士とコミュニケーションを習得する場面では興味深く受講できたと考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「今後、現場に出てから使えそう」「高齢者、若者向けのゲーム内容を学べた」「もう少し時間を増やしてほしい」「今まで話せなかった人と話せた」「楽しかった」「楽しいだけではなく一つ一つに目的があることを知った」「スライドが見えにくいところがあった」などの意見があった。

◆今後の改善に向けて

パワーポイントが見えにくいとの意見があり改善を行う。

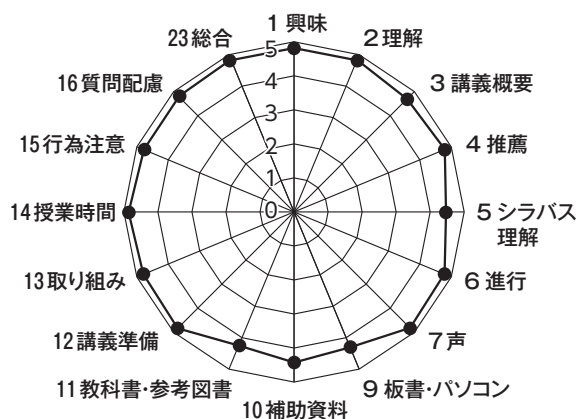
今後、人との（若者から高齢者）コミュニケーションをより円滑に出来、興味深い授業内容を展開する。

H26 レクリエーション

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

概ね良好であったと考える。「9. 板書やモニター提示の量、文字の大きさ、書き方などは適切でしたか」については、講義内容が多であったようである。「7. 授業中の教員の声は明瞭で聞き取りやすいものでしたか」については、体育館の授業で声が反響し聞きづらかったようである。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「体を動かして楽しかった」「皆と交流ができた」「もっといろいろな運動がしたい」「METSは難しかったけど学べて良かった」「高齢者の運動強度が知れて良かった」「やったことのないスポーツをやれた」「グループで協力しあえて良かった」「ライフコーダーを実際に体験できて良かった」「パワーポイントの字が見づらかった」「体育館が遠い」などの意見があった。

◆今後の改善に向けて

この授業は、「講義と演習」となり講義内容を盛りだくさんになる傾向のため今後は、重要点を絞りパワーポイント資料を少量にすることを改善とする。

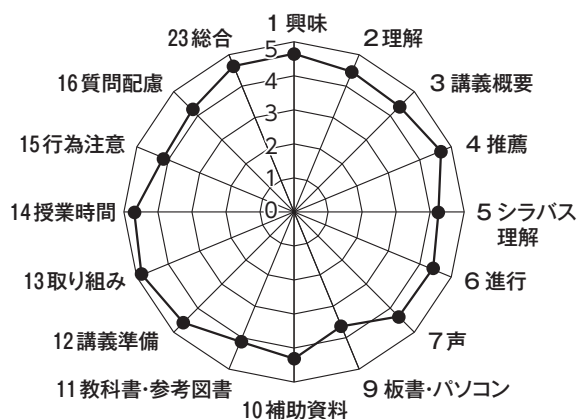
今後、学生自分自身の健康管理と、医療現場で活用できる、運動内容や運動強度などを実践例を踏まえながら授業展開をおこなう。多少体育館が遠くても、ダイナミックに身体運動を心掛けて欲しい。

H26 健康運動とスポーツ

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

どの項目も平均値が4を超えていたので、大きな問題点は思いつかない。

学生数が66名で、教室の2/3くらいの位置までに全員が収まるようになり、やる気のない者が後の方に溜まらないよう指定席にしたので、学習環境としては良い状況を保つことができた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

地球の環境について身近なことから考えさせ、グループでの討議なども取り入れて授業を進めたことに対して、よかったと記載した意見が多かった。今後も学生が能動的に学習できるよう工夫して講義を行いたい。ただ、グループでの討議などを行わせると、時間を取られ、学習する内容・量がどうしても減ってしまうので、二つの学習をどうバランスをとって進めるかが今後の課題である。

◆今後の改善に向けて

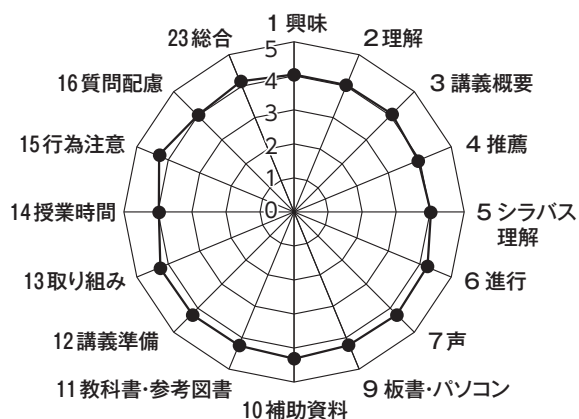
今後も、学生が能動的に学習できるような場面を設定しながら、学生に身近な問題から地球環境を考えさせることができるよう講義を進めていきたい。しかし、グループでの学習では、意欲のない者が意欲のある者に隠れてしまうことがある。今回の授業でも、そういった学生がいなかったわけではないので、全員が能動的に学習するよう、指導方法を工夫した講義の進め方を考えていきたい。

H26 生物と環境

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



担当教員

石黒茂

◆集計データ結果について

「理解しやすいものだったか」が「そう思わない」「あまりそう思わない」合わせて20%あった。内容については高校で履修する生物の内容と本学で履修する専門基礎科目の橋渡しとなるようなものであり、さほど難しいものではない。設問項目19の予習や復習をやっていない学生の数を見れば、当然と言ってよい数値ではあるが、高校時代に生物を選択してこなかった者や十分理解してこなかった者が思った以上に多くいるので、もう少し配慮が必要であった。

また、予定の範囲が終わりきらず、授業時間を超えて授業を行うことが多かったので、「授業時間を守っていた」について評価が悪かった。この点には注意が必要である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

説明が早く、板書が多くて書ききれなかったという意見があった。大事なところは繰り返し時間をとっていたつもりであり、そんなに早く授業を進めていたつもりはなかった。

また、プリントを配布して、書きうつす量はかなり減らしてあったが、いろいろな学生がいるので、もう少し注意が必要であった。一枚のスライドの字が小さいという意見もあったが、教室が長く見づらい位置もあるので、学生が自分で見やすい位置に座るよう努力することも必要である。

自由記載の中には、明らかに他の授業のことが書かれているものもあったのは残念である。

◆今後の改善に向けて

学習指導要領が変わり、来年度学生からは生物をまったく履修せずに入学してくる学生は少なくなる。それでも、多様な学生がいる現状から、今年度の内容を検討し直し、シラバスを作成する必要があるだろう。しかし、意欲を持って勉強している学生のことを考えれば、短大での授業としてのレベルを低下させるわけにはいかず、むしろ、やる気の欠如した、予習復習をしない学生を受け身の学習から脱却させるよう指導を考えなければならない。

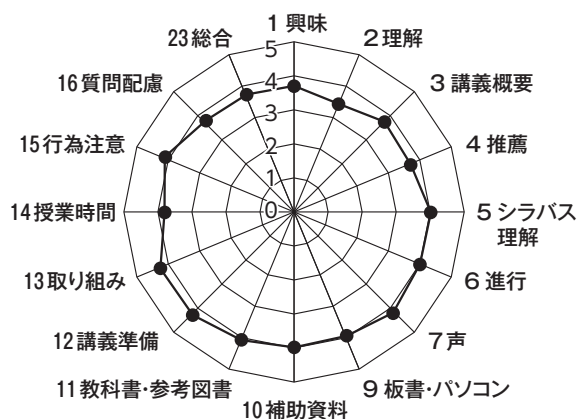
プリントについては、できるだけ筆記させる量を減らしたり、スライドの字をできるだけ大きくしたりして、改善していきたい。

H26 生命の科学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



担当教員

鳥居昭久・蟹江裕乃・加藤真弓・宮津真寿美・林修司・木村菜穂子・松村仁実・荒谷幸次
河野健一・原和子・美和千尋・石黒茂・港美雪・加藤真夕美・山下英美・堀部恭代・五十嵐剛

◆集計データ結果について

得点は平均的になっており、項目別の差が少ない。オムニバス形式の講義であり、学生も評価が難しいところであったと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

PTもしくはOT卒業生による講義に対して、業務内容や役割についてある程度イメージが出来たのでは？と思われるが、一方で、十分な理解が得られていない面も伺える。小論文に関する講義と、別の講義のレポートをリンクさせた指導が行われたが、高校までの国語力、文章力の低さからとまどいも多いように思われた。

◆今後の改善に向けて

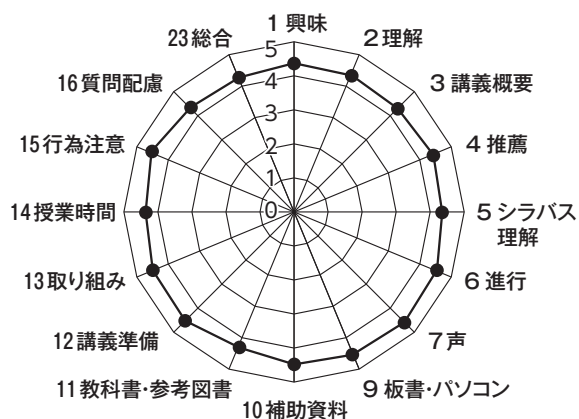
この科目は、主に理学療法士・作業療法士を目指すにあたり、モチベーションを向上させるきっかけになることを暗に目的としている。また、一般教養を高める為の内容も必要となる。内容としては時間が十分有るとは言えないことが多く、基本的教養を高めるためには、強化が必要な科目である。しかし、一方で具体的医学的内容では無いために、学生も学ぶ意味を十分に理解できず、講義内容や、一般教養の知識を貪欲に得ようとする取り組みにかける部分がある。これは、本来、高校までにすませるべき内容であるので、学生には十分にこの重要性を理解させることができないためと思われる。医療人としての最低限の教養が重要な素養であることを感じさせる工夫が必要である。

H26 教養演習

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

特に大きく評点が低い項目はなく、バランスが取れていると読み取れる。詳細にみると授業内容の項目では、「理解」が低めの評点である。解剖学的な知識と実際の体での三次元的な理解につなげる作業は今まで経験したことが無いと考えられ、その点が難しく理解を下げている原因だと考えられる。

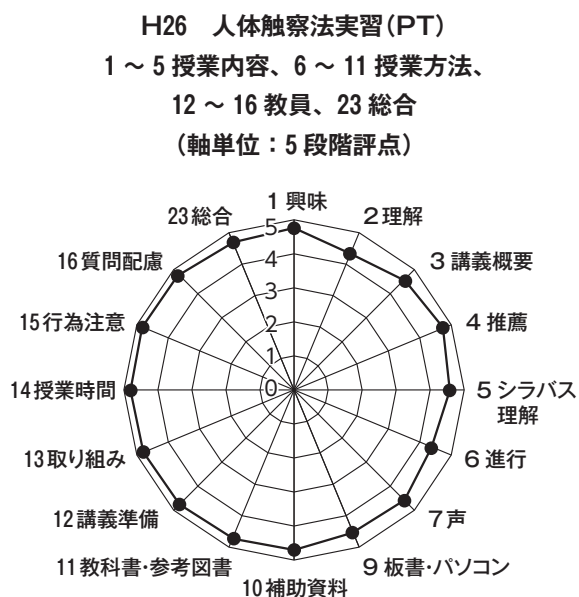
授業方法の項目では、「進行」の項目が低めの評点である。限られた時間の中で、全身の筋の触察を学ぶため、どうしても内容としては濃くせざる負えない。その辺で、進行が早く感じていると考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

人体の構造についての理解が深まり、学ぶ楽しさを感じた学生がいる一方、難しさを感じている学生もいた。その中でよかった点としては、分からないことをすぐに聞ける環境と説明の分かりやすさを挙げた学生がいた。実習授業であるため、学生自身が体験しながら適宜指導していく方法は今後も継続していく。

◆今後の改善に向けて

難しさを感じる学生は、多くの筋を三次元的に捉える事が難しく、教科書を見ての授業でも理解できていない様子である。予習の重要性を理解していない、また予習のしかたが分からないと考えられる。そのため、授業の中でも予習の重要性を説明し、テキストを使った予習のしかたを具体的に示しながら授業を進めていくようにする。



◆集計データ結果について

理解の部分が若干低めの結果ではあったが、概ね高得点と言える。学習内容に対して総時間数が短く、学生にとってはタイトな科目だったと思われる。その点で、十分な理解に達するまで行かなかった可能性がある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

この科目の大切さを伝えるため、熱意を持って講義を行った結果が学生には十分伝わったと思われる。実技が多く、教員間の質的レベル差があったために学生には戸惑いを感じる場面があったようで、教員間の連携の必要性を改めて感じる。

理解が十分出来ずに終わってしまった場面があり、学生からのリクエストとして、もう少し実習時間を多くして欲しいという意見があった。

◆今後の改善に向けて

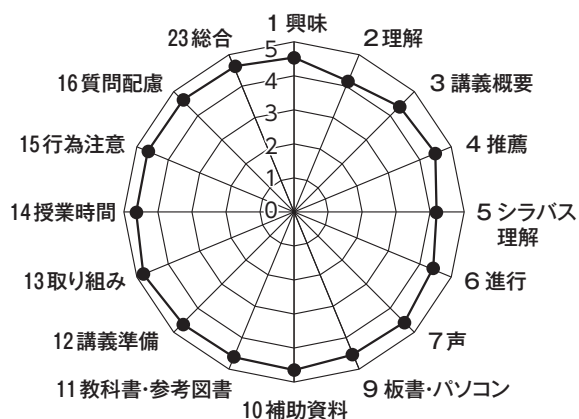
次年度は、内容を若干変更して実施する予定である。MMT や ROM テストにむけての実務的な内容を中心に、学生の理解を促して行く。

H26 人体触察法実習(OT)

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

全項目を通して、平均的に4以上という結果であった。

4～16の質問項目の内、5の割合が高かった項目は、高い順に、「授業の開始時間・終了時間の遵守」、「教員の意欲・熱意」、「後輩に推薦」、「マイク使用」、「質問への配慮」であった。4の割合が高かった項目は、「理解が困難」であった。

17～23の質問項目の内、5の割合が高かった項目は、「休まずに出席した」、4の割合が高かった項目は、「理解できないことを質問したか」であった。

概ね、良いと思われるが、理解を容易にするために、さらなる工夫が必要と思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

大きく分けて二つの記述が見られた。一つは「わかり易かった、楽しかった、興味深かった」で、記述されていた中ではもっとも多い感想であり、他の一つは、学生自信の反省点で「復習が必要」、「授業に集中すべきであった」などがあつた。

常に心がけていることであるが「毎時間前の復習、教科書のページを示す、質問への対応」などについての記載があり、教員の意図が伝わっていると思われた。

教科書以外に提示する図については、「わかり易かった」と「プリントがほしい」との各1の感想があつた。

以上のことを総合すると、授業に対して工夫している点は、評価されていると思われる。

◆今後の改善に向けて

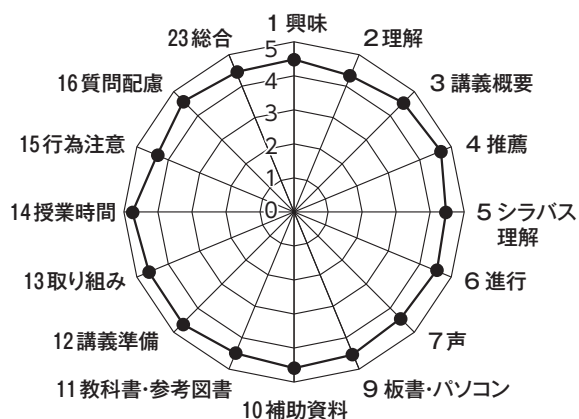
生理学は、人体の機能を理解することを目的としており、分子レベルでの話題から個体レベルの話題までの広範囲に渡るので、学生達には難解な科目の一つであろう。この点の結びつきについて、さらに理解を深めるような講義を心がける。

H26 生理学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

全項目を通して、平均的に4以上という結果であった。

4～16の質問項目の内、5の割合が高かった項目は、高い順に、「声が適当」、「講義準備」、「授業の開始時間・終了時間の遵守」、「教員の意欲・熱意」、「後輩に推薦」であった。4の割合が高かった項目は、「理解が困難」の項目であった。

17～23の質問項目の内、5の割合が高かった項目は、「休まずに出席した」など出席に関するもの、「熱心に取り組んだ」で、4の割合が高かった項目は、「理解できないことを質問したか」であった。

概ね、良いと思われるが、理解を容易にするために、さらなる工夫が望まれる。実習時間中で質問を受ける場合、十分に対応できないので、実習後のまとめを充実させることが必要と思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「楽しかった、よかった、知識が広がった」の記述が最も多く、「わかりやすい、理解できた」の記述が次に多い感想であった。学生の反省点の、「予習不足」についての記述は、1件だけであった。あらかじめ、実習講義で実験・実習の手順を説明したことが、学生の理解を促したと考えられる。また、自分たちの行った実験の結果について解釈し、考察できることを目標の一つにしているが、「考える時間があるよかった」の意見があったことから、教員の意図することが伝わっていると思われる。

◆今後の改善に向けて

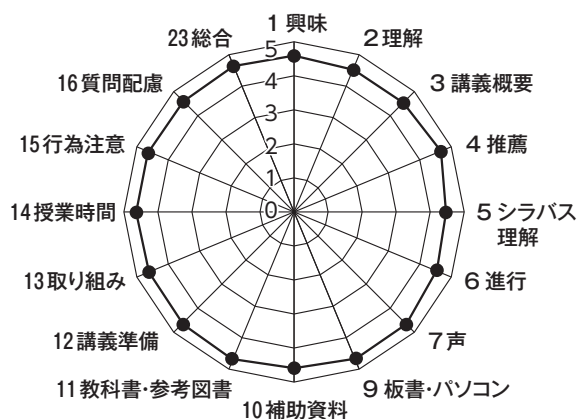
生理学実習は、生理学で学んだ知識を実験・実習で確認することを目的としている。本アンケートの結果、ほぼ目的を達成していると考えられるが、「人数が多すぎる」との記述もあり、班分けに関しては工夫が必要と思われる。

H26 生理学実習

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

すべての項目において、4～5の間にあり、学生の評価は良好であると判断します。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学生からの自由記載では、わかりやすい点として、説明、スライド、スライドの図、配布資料があげられています。特に何人かがよかったとしているのが、小テストです。「小テストでどこが大事なかわかり勉強しやすかった」「自然と復習するようになった」「テスト勉強の助けになった」などの利点を挙げています。この学年の小テスト最終成績は、9割以上正解だった学生が約半数おり、小テストを頑張った学生が多かったです。採点の苦勞が報われた感じがしました。授業中、おりにふれ、1年生の前期の科目なので、言葉を覚えることが大事だと何度も話しています。

質問しやすい環境であった、との記載がありますが、授業中、挙手してまで質問する学生はいないが授業後、質問にくる学生は少しいます。

◆今後の改善に向けて

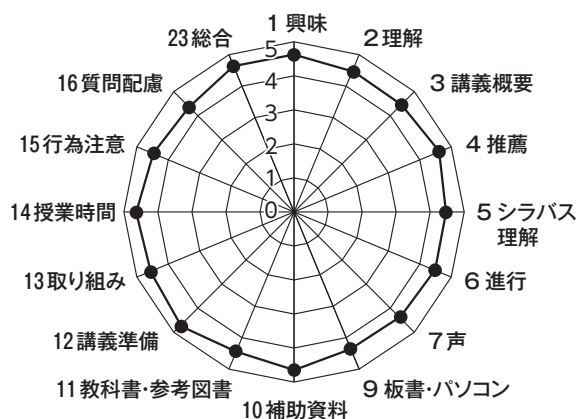
好評であるスライドでの講義、毎回の小テストは継続します。ただ、浅い理解で、なんとなくわかった気になっている学生が多く、授業目標である運動の仕組みが説明できるレベルでの理解には達していないと思います。双方向性の授業や記述式の小テストなどを取り入れたいところですが、時間や労力に限界があります。できることから改善していきたいと思います。

H26 運動学総論

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

「授業の内容は、あなたにとって理解しやすいものでしたか」は4点に届かず、それ以外も4.5未満となり、課題を残す結果となった。

詳しく見ると「授業の進み具合は適切でしたか」「授業中の教員の声は、明瞭で聞き取りやすいものでしたか」「授業中のマイクの使用は適切でしたか」「板書やモニター提示の量、文字の大きさ、書き方などは適切でしたか」の項目で『①そうは思わない』『②あまりそう思わない』が複数名あり改善の必要があると考えられた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

感想には「わかりやすかった」15名、「楽しかった」7名、「理解が深まった」3名とあり「動作は何に由来して動かされているのか、分かっていく過程が楽しかった」との記載もあり、授業の目標が達成できた部分も伺えたが、一方「難しかった」も4名あり、個々の学生によって感じ方も様々であることが伺われた。

よかったと思う点には「小テスト」「プリント」「模型」「お互いに説明」が複数挙がっており「自分の体を使って実践するところ」「みんなでやることで、私たちが聞くだけでないところ」との記載もあり、演習が好評であったことが伺えた。

改善すべきだと思う点には「スライドが見えづらい」「説明が見えづらい」が複数あり、「指のところをもう少し時間をとって話して欲しい」との記載もあり、改善の必要があると考えられた。

◆今後の改善に向けて

多くの学生から“理解しやすい”授業であったと評価を受けるためには、まず環境の問題として、大教室で行わざるをえないなか、後部席の学生へのさらなる配慮が必要であると感じている。26年度は骨格模型を後部座席へ移動させながら説明したが、実物投影機を使用している説明は、モニターで見るしかないのも、さらに拡大して映すなど工夫が必要であると思う。また例年“指の部分が分かりにくい”との評価を受け、改善に努めているがまだ不十分のようである。穴埋め式プリントの改善と立体的なイメージを作るための模型の工夫に取り組みたいと考えている。

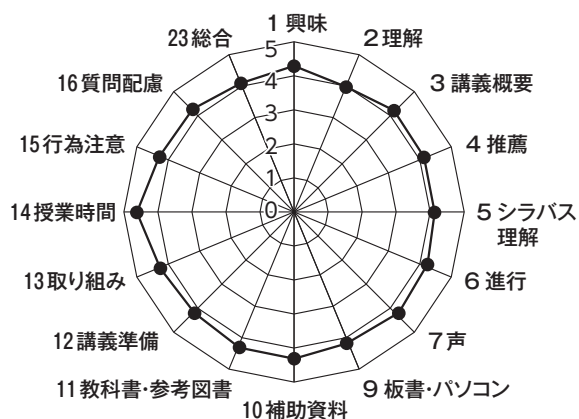
そして、例年どおり「小テスト」とその結果を利用した補足説明、さらに26年度に好評であった「自分の身体を使った実践」「お互いに説明」といった主体的な学びを促す取組みを引き続き行っていこうと考えている。

H26 運動学I (頭頸部・上肢)

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



担当教員

荒谷幸次

◆集計データ結果について

学生からの評価は「授業内容」、「授業担当者について」、「学生自身の授業態度」については、すべて4以上であり概ね良好であった。

しかしながら「授業の方法」の「声」、「板書」について4あるいは、4に満たない評価であった為、今後改善が必要である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

改善すべき点について、上記の評価に反映した内容である「マイクの音量が小さい、語尾が聞き取りづらい」「板書の字が小さくて見にくい」といった記載が最も多かった。本授業は4階講堂で実施している。席は番号順で指定しており、マイクを使用し、板書はステージ上のホワイトボードを利用している。従って、特に後方の席の学生からそのような声が挙がっているようである。

良かった点については「骨模型を使いながら進めたことで理解しやすかった」という意見が多く、その点については好評であった。

◆今後の改善に向けて

今後の改善においては、特にマイクの音量について配慮が必要である。また、語尾を丁寧に明確に話すなどの自身の話し方についても気をつけていきたい。板書については、特にすべての学生に平等に伝わるように、字を大きく色分けを明確に板書するように改善していきたい。

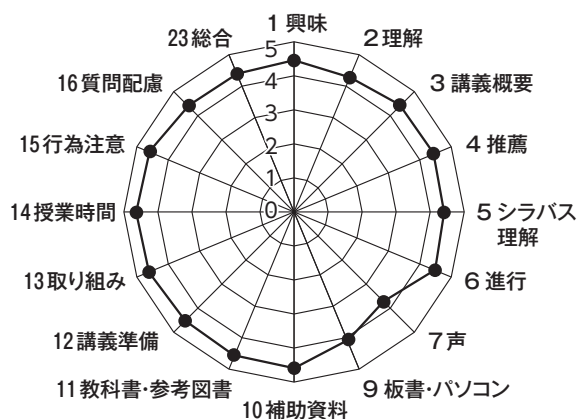
今後も今以上に、学生の理解が進むように、また勉強意欲が沸くような講義を心掛けたい。

H26 運動学Ⅱ (体幹・下肢)

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

すべての項目で4～5の間にあり、しかも5に近い点数であったため、学生の評価は高いと考えた。授業途中で、教員の病气療養があり、科目担当教員を変更した。できるだけ学生の負担にならないように授業変更で対応したが、大きな問題はなかったようである。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

グループで実習を行い、レポートを書き、考察をする授業であった。良い意見としては、「自分で調べるので理解が深まった」「運動について理解できた」「考察をする力が少しついた」「考える力がつく」「難しかったけどためになった」など、悪い意見としては、「考察が難しかった」「レポートが大変」などがあつた。実習で得たデータから考察しレポートを書くことが難しかったようだが、授業を受けて能力の向上を感じるなど好意的な意見の方が多かった。

◆今後の改善に向けて

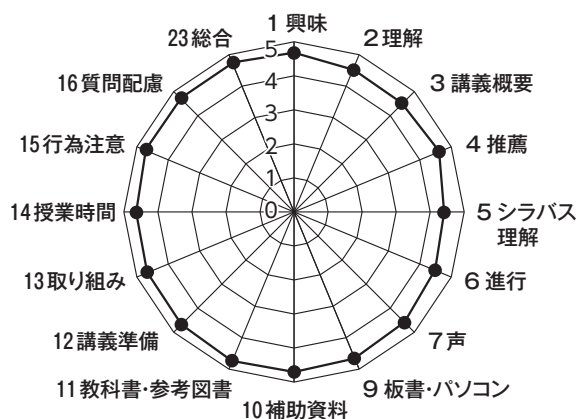
学んだ運動学の知識を再学習し、自分たちで行動し調べ考えそれを文章にする能力が向上できる科目である。ただ、後期後半の期間に開講し、学生にとっては他教科の試験と重なり、時間管理が大変そうである。もう少し学生の負担を減らせる工夫と、考察を深めるための基礎知識の定着を図りたいと考える。

H26 運動学実習(PT)

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

「授業の内容は、あなたにとって、理解しやすいものでしたか」については4点に届かなかったが、それ以外は4点となった。「理解」に関しては『⑤そう思う』は13.3%、『④どちらかといえば、そう思う』が53.3%、『③どちらともいえない』が28.9%となり、『②あまりそう思わない』が2.2%であった。自由記載にもあるとおり、全体的に内容が難しく、項目によっては特に理解しにくい部分があった可能性も考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「動作分析が難しかった」は5名、「レポート作成が大変だった」は3名の記載があり、「レポートを書くことは大変だったけれど実習は楽しくできた」と記載した3名を含めると、多くの学生が、授業が難しく大変であったとの感想を持っていた。

一方「何でこうなっているのかが自分なりにわかってくると楽しかった」「体の筋肉の動きや関節の動きについて知ることができてよかった」「実際に見て観察した方がとても理解が深まった」「歩行などについて詳しく知れた」「運動学で学んだことを生かせた」「とても楽しかった」等の記載もあり、実習の意義を感じた学生の存在も伺えた。

しかし、項目によっては「説明が十分でなかった」等の記載があり、改善の必要があると言える。

◆今後の改善に向けて

授業全体としては“動作分析”“レポート作成”が大変ではあるが、それを通して運動を理解する楽しさを得ることができると考えられ、引き続き、学生の主体的な取り組みを促す授業展開を行っていく必要があると考える。

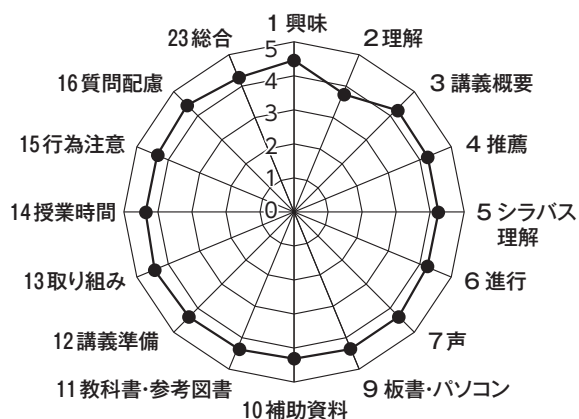
また、運動学の知識と連携させ、学生自ら考えることを望むあまり、説明が不十分と受け取られた項目もあったと考えられるため、個々の学生の理解度に合わせた、説明や考察のポイントの指導などに、工夫が必要であるとする。

H26 運動学実習(OT)

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

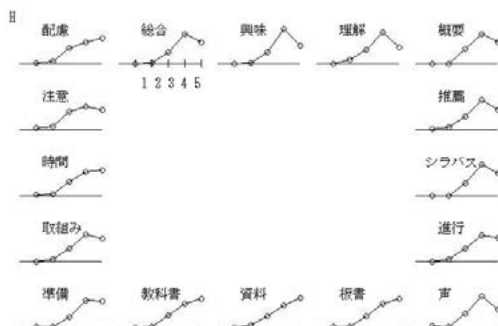
(軸単位：5段階評点)



担当教員

伊藤宗之

◆集計データ結果について



同心円表示では各項目の平均が半径4点円に沿って一様に低迷している。しかし各項目内の点数分布を縦横座標で見ると、「声」のように4点から5点にかけ急降下する「5下がり」のものと、「板書」のように4点から5点にかけ「右肩上がり」を示すものがある。前者は悪い徴、後者は良い徴である。声が理解・興味・総合に影響している。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

難しかった / 難しかった / よくわからなかった / 声が聞き取りにくい / すごく難しかった / 先生の声が少しききとりにくいです / わかりにくかった / 授業が雑 / 楽しくない / 応用的な面を交えるべき / マルをつけるやつ聞きとりにくいことが多かった / 席の固定 /

◆今後の改善に向けて

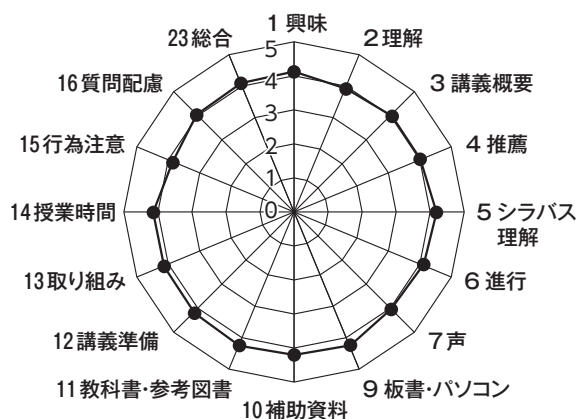
声量の鍛錬と言語の明晰化。

H26 人間発達学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

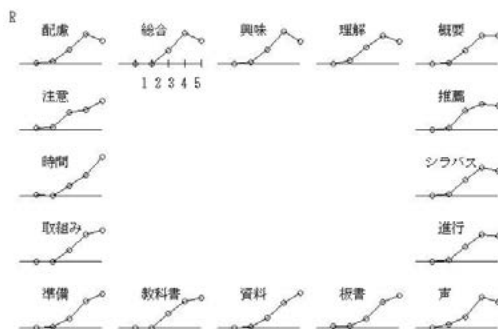
(軸単位：5段階評点)



担当教員

伊藤宗之

◆集計データ結果について



同心円表示では各項目の平均が半径4点円に沿って一様に低迷している。しかし各項目内の点数分布を縦横座標で見ると、「声」のように4点から5点にかけ降下する「5下がり」のものと、「板書」のように4点から5点にかけ「右肩上がり」を示すものがある。前者は悪い徴、後者は良い徴である。声が理解・興味・総合に影響している。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業の内容がすごくむずかしかった / 授業の内容が難しくて分かりづらかった / むずかしかった / 難しかった / 正直難しかった / 色々専門用語が出てくるため理解するのが大変だった / 知らないことばかりだった / 正直屈でした / プリントも見にくいしプリントがもう少し見やすければ、いいかもしれない / 難しかったです / 難しかったです / 最後の方で時間がつまって内容が薄くなってしまったのが残念でした / たまにスクリーンに出てくる画像が怖い / 症例の写真にしょうげきを受けた / 聞き取りやすくしてほしい / 授業の雰囲気があまり良いとは思わなかった / 私語を注意すべきだと思った / 私語などもっと注意すべきだと思いました / 終わる時間、始まる時間を守ってほしい

◆今後の改善に向けて

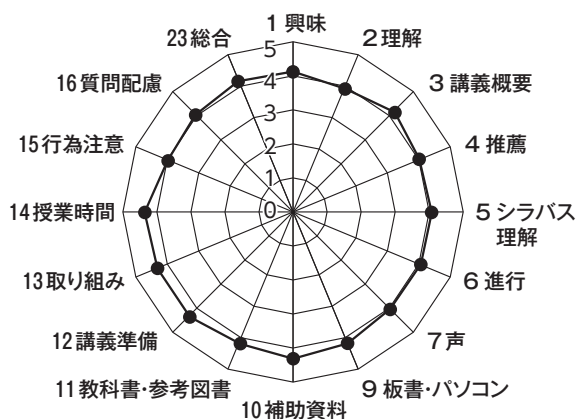
声量の鍛錬と言語の明晰化。

H26 一般臨床医学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



担当教員

山田正人

◆集計データ結果について

1～6各項目のバランスは、ほぼ良かったが、「9. 板書やモニター提示の量、文字の大きさ、書き方などは適切でしたか」及び「16. 学生が質問したり、意見を述べられるような配慮がなされていましたか」の評価点がやや他の項目に比較して低かった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業内容・方法に関し、学生の反応・評価はどうかと思っていたが、ほぼ良好であり、ほっとした。

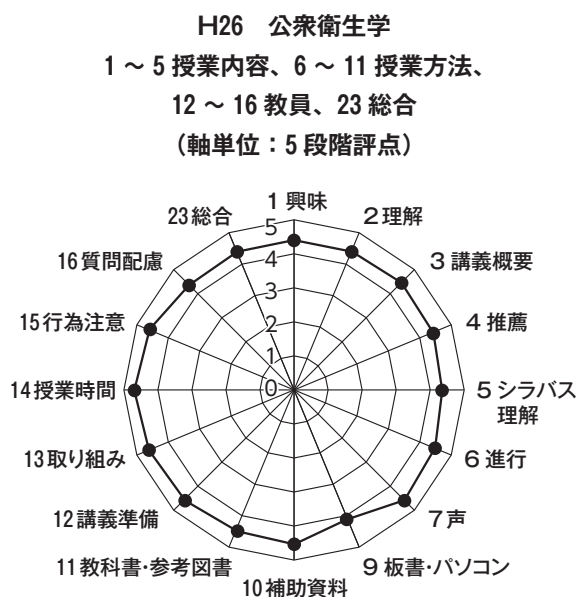
臨床及び行政時代の経験で得た体験談と、その自己の率直な思い及びこれまでの人生経験上の話、日捲り等を利用した「諺」著名人の「名言」は好評であった。

専門知識の修得のみならず、人格形成の一助になればと思われた。自己満足する事無く、更に意欲を出し、前向きな姿勢と自信を持てる学生の教育に貢献したく思う。

◆今後の改善に向けて

公衆衛生学会 総会 学術集会参加等による最新の情報及び公衆衛生学的専門知識の修得のみならず、これまでと同様、今後自己の健康管理と各々が将来の専門職に就いた時にも役立つ、生きた知識を講義したく思う。

尚、集計データ結果において評価点の低かった項目につき工夫し、改善の努力をする。



◆集計データ結果について

明確に話すことやわかりやすい説明をすること、整理された板書をする、使いやすいプリントを編集することなど、授業方法についての基本的な配慮が効果を上げている。

数値データにもとづく円グラフは、ほぼバランスのとれた形となっており、授業全体が円滑に運営され、学生の評価に問題はないといえる。とくに評価が良い項目としては、授業の方法についての項目6（進行）、項目7・8（声・マイク）、項目9（板書等）、項目10（補助資料）、および授業担当者についての項目12（授業準備）、項目13（取組み）、項目14（授業時間）、項目15（行為注意）などが挙げられる。一方、項目2（理解）、項目18（質問）、項目19（予習・復習）については、改善の余地があると思われる。次回の授業について予習などの準備をし、授業中の疑問については積極的に質問し、復習をするという流れを円滑にすることで、理解度を上げられるような指導がさらに必要である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

専門的援助の受け手に対応する際の傾聴の必要性や実際の心理臨床的援助の方法（カウンセリングや各種心理療法の基礎）が学べたという意見が多く、授業の目的・到達目標については、一定程度達成されたと考えられる。

このほか、心理アセスメントについての体験的学習を評価する意見が多く見られ、対人援助職としての自己理解を促す結果になったようである。

また、授業の方法については、担当教員の臨床経験に基づく具体例をあげての説明が理解を促進したという意見もみられた。

一方、改善すべきだと思う点については、ほとんど記述がなく、もう少しこの点について記述をするよう促すべきであった。

◆今後の改善に向けて

基本的には、現在の授業内容、授業方法が学生に受け入れられている結果であり、今後もこれを踏襲していく。しかし、学生からの自由記述によるコメントも併せて、常に改善の余地を見つけて実施していくことが重要と考えている。

理学療法学専攻と作業療法学専攻では関心のある領域にやや違いがあることについても臨機応変に対応し、学生の学修意欲を高めるような対応を試みて行きたい。

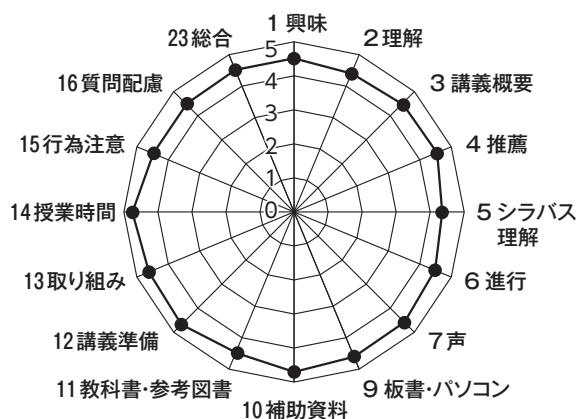
今後とも、より理解を助けるよう工夫した教材を呈示し、具体例にもとづく分かりやすい解説をするよう心がけていく。学生の学修態度については、折にふれて予習・復習を促し、質問に適切に対応して、動機づけを行い、理解度を上げるようにしていく。理解度を上げ、さらに新たな問題提起や質問を引き出すような働きかけが継続できればと考えている。

H26 臨床心理学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

集計結果があまりに良いので驚いた。内科学はすべての臓器が一冊の教科書にまとめてあり、これを15回で説明し・理解させようとするとは並大抵の努力では不可能だった。どうしたら聞いたことのないような疾患について、病態や症状、検査法から治療法までをある程度（医師になるわけではないので）理解させられるか、本当に悩んで講義用のスライドを作成した。また、重要な部分や理解に役立つであろうと思われる部分については他の資料からのコピーを参考にプリントを配布した。特に力を入れたのは病態についての説明で、総論で話したことを何度も繰り返し、わかりやすいように話した。講義前にこれ以上の努力は思いつかないので、当面は同形式で進めたいと思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

多くは、難しい内容について分かりやすく説明してくれた、という記載であった。自分が分かりやすさ、という点を重要視して講義準備をしたので、結果的には満足できる自由記載が多かった。意を強くしたので、今回の形式を今後も踏襲することになると思われる。

◆今後の改善に向けて

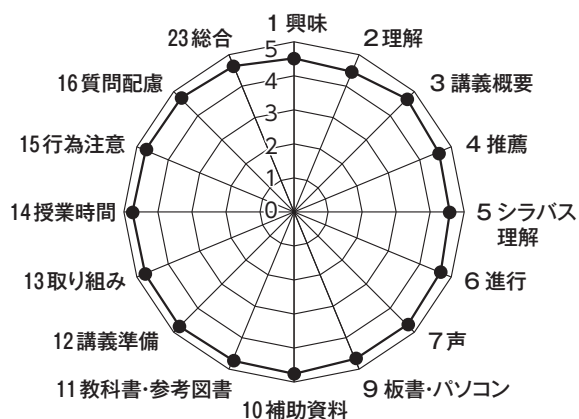
「集計データ結果について」と「学生の自由記載の内容を検討した結果」で記載したように、今のやり方に大きな欠陥はないように感じた。したがって、理解のしやすさをさらに追及する努力を重ねていきたいと考えている。

H26 内科学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

1～16各項目のバランスは、ほぼ良かったが、「7. 授業中の教員の声は明瞭で聞き取りやすいものでしたか」について、若干評価点が低い様に思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業内容と方法に関し、教科書的知識だけではなく、実際の臨床経験を交えた講義は学生に興味深く、また自己の考え方を示し、学生自身の思考力を養う一助になれた様に思われる。

各講義・資料としてのレジュメ（まとめ）は好評であった。

更なる努力をし、学生自身の積極的な姿勢を引き出せる様な内容の講義・指導に心掛けたい。

◆今後の改善に向けて

2年生の段階として専門性の高い内容を何如に積極的な学習意欲・知識欲を抱く様に指導・講義して行くか、更に工夫したく思う。

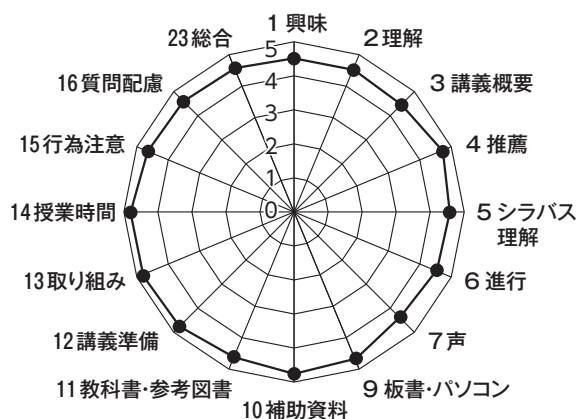
又、集計データ結果「7. 授業中の教員の声は明瞭で聞き取りやすいものでしたか」について、聞き取りにくい点に留意し、改善の努力をしたい。

H26 整形外科学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

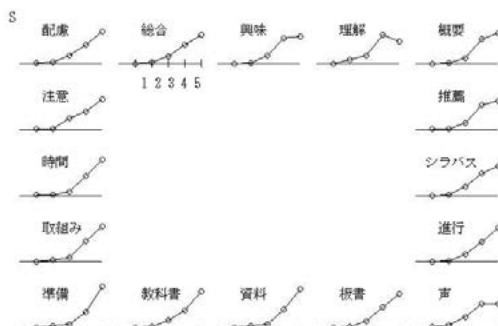
(軸単位：5段階評点)



担当教員

伊藤宗之

◆集計データ結果について



同心円表示では各項目の平均が半径4点円に沿って一様に低迷している。しかし各項目内の点数分布を縦横座標で見ると、「声」のように4点から5点にかけ「頭打ち」するものと、「板書」のように4点から5点にかけ「右肩上がり」を示すものがある。前者は悪い徴、後者は良い徴である。声が理解・興味に影響している。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

難しかったです / 難しかった / 難しかった / 難しい / うるさくて集中できなかった / うるさい所 / 授業がうるさくて不快 / 出席を取るか取らないか統一してほしい / 電気をつけたり消したりするのをやめてほしいです / 電気をつけたり消したりするので少し目がつかったです / 席は自由で / 出席確認はカードで / 授業プリントの全解答が知りたいです / 小テストの時間がみじかい /

◆今後の改善に向けて

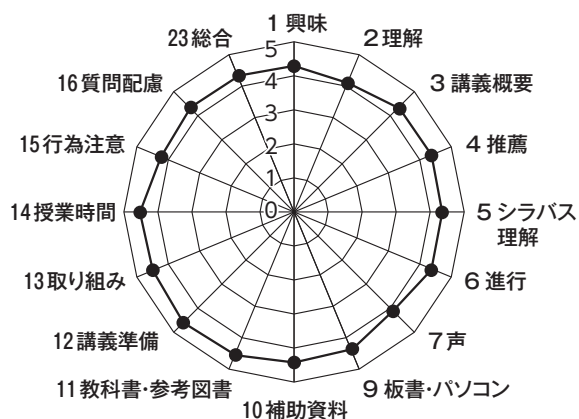
声量の鍛錬と言語の明晰化。

H26 神経学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



担当教員

杉浦潤一

◆集計データ結果について

直接結びつかないのか他の専門分野のデータに比べて評点が全体にやや低いが、4を下回るものは少数でバランスはとれている。OTで14が低いが、2時間連続の講義の間の休み時間に5分位延長して行なったことを指摘されたものと思われる。しっかり説明して納得してもらったと思ったが認識不足であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

OTは23名(65.7%)、PTは11名(37.9%)に記載があった。

講義は「分かりやすかった、興味が持てた」:「難しかった」が7:3であった。

授業直後にその日の講義内容の小テストを3年間しているが、「小テストは当日はしないで欲しい」という記載が本年はじめて数名にあった。当日テストの目的は、講義を始めるにあたって、講義に集中しノートを取り、その場でしっかり理解に努めてもらうためであることを説明したが十分ではなかった。

自ら体験した臨床例を多くあげ臨場感が得られるように疾患を説明したこと、テキストを補完するために配布したプリントは好評であった。

少数ではあるが板書の字が分かりにくいなどの指摘があった。先生は分かりやすく説明していると思っても学生が理解できなければ分かりやすいのではないとの記載は上記の「難しかった」の3割をどう指導するかが課題である。

◆今後の改善に向けて

限られた時間で如何に分かってもらえるかの工夫が今以上に必要と感じた。

知っているかいないかではなくどう考えるかの質問を心がけてはいるが、学生諸君も躊躇することなく反応してもらえるにはどうすればいいか考えたい。受け身で一方的ではなくいっしょに授業を盛り上げる積極性も示して欲しい。

メディアを使えばすぐ知識が得られる今、対面して行なう講義に興味を持たせるにはどうするかを考えよう。

OT:受講者35名。アンケート実施は定期試験後。回答者は全員(100%)

PT:受講者36名。アンケート実施は最終講義後。回答者29名(80.5%)

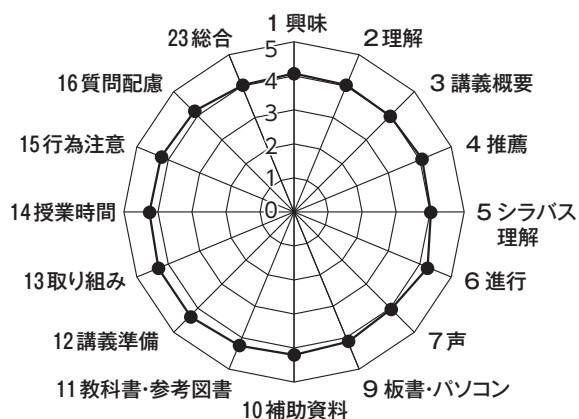
(アンケートは事務担当者からの指定日に学生に自主的に行なってもらったもの)

H26 小児科学(PT)

1~5 授業内容、6~11 授業方法、

12~16 教員、23 総合

(軸単位:5段階評点)

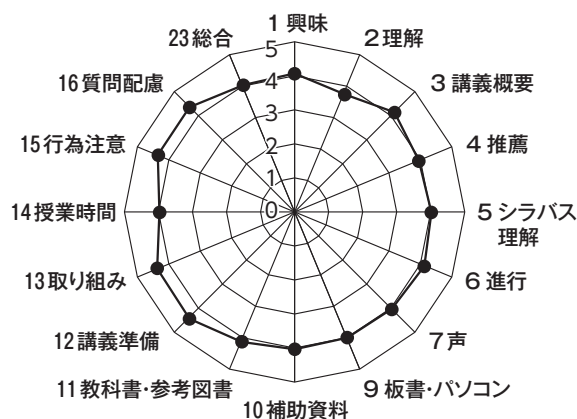


H26 小児科学(OT)

1~5 授業内容、6~11 授業方法、

12~16 教員、23 総合

(軸単位:5段階評点)



◆集計データ結果について

質問配慮・行為注意・シラバス理解・教科書参考書の項目の点数が低かったのに驚いた。

毎回講義終了時に質問やコメントがないかの問いかけをしたが一切なかった。講義中に無駄話をするのは前もって厳禁とし、それでも隣と話をしている場面を見つけると厳しく注意した。したがって、講義中に寝ている学生はいても、話をするものはほとんどいなかったはずである。また、シラバス理解・教科書などについては、もともと教科書はないことをシラバスに謳って、毎回必要な内容はプリントにて配布しており、なぜ評価が低かったのか理解できない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

多くの記載は、ためになる話であり、話を聞くことが楽しみであった旨のものであった。

これらは雑談ではなく、短期大学では修学期間が短く選択科目としての教養的な授業が少ないため、時事問題・古典・道徳などについて、かなり苦勞して話す内容を吟味・工夫し、受け入れられやすい内容を選んだ。大変な努力が必要である。とは言え、好評であったことで、その努力は報われたと感じている。

◆今後の改善に向けて

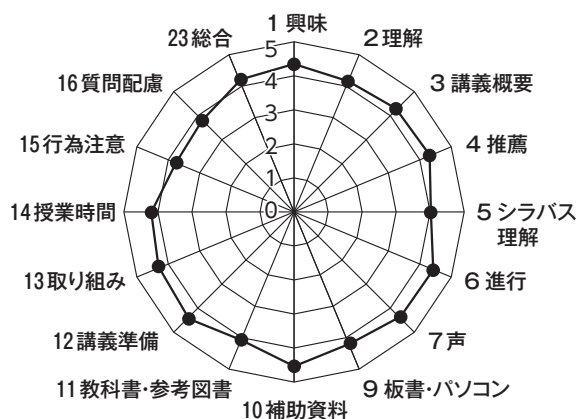
現在の形式を踏襲するつもりである。できれば、もう少し踏み込んだ内容で、学生と討議したいのだが、彼らの多くは、時事問題についてもほとんど知らないので、悲しいかな議論にならないのが現状である。

H26 安全管理・救急対処論

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

授業時間に関する項目が若干低かったが、他は概ね高い評価であった。授業時間は、他の講義との関係で変更が多く、改善を必要とする部分であろうと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

オムニバス形式で行ったが、前半の講義の内容が学生理解には難しい内容であったようである。先ず、リハビリテーションの言葉の理解を十分に促すことが大切であろう。教員間の連携が十分に取れていなかった可能性もある。

◆今後の改善に向けて

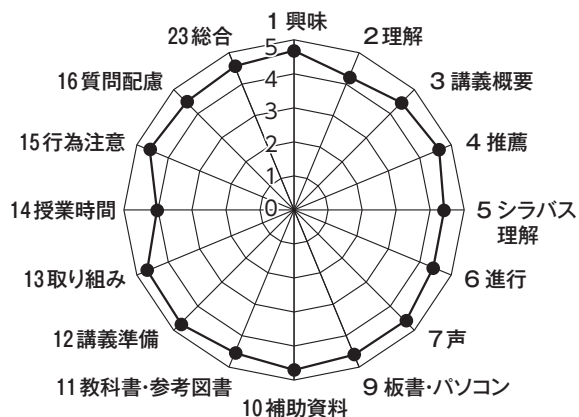
次年度は、担当教員を若干入れ替えて、一貫した内容で進める予定である。リハビリテーションの理解と、障害の理解を促し、その後の科目学習に活かせられるように促すことがこの科目の役割であることを再認識して進める予定である。

H26 リハビリテーション概論

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

時間に関する項目が若干低めであった。他の項目も納得できる高さとは言えない。この科目の内容は各自で調べ、また家族とディスカッションするなど、高校の学習に比べるとかなり難解な作業が多く、学生も戸惑いも多かったと思われる。いわゆる正答の無い課題に対して十分な意欲を持って取り組めたかどうか若干の不安が残る結果であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

この科目のテーマである「死」や「命」ということを含めて、多くの難解な課題を家族とディスカッションしてきて講義レポートにまとめるという「間接的家族参加型講義」の取り組みは学生にとっては慣れない部分も有ったようである。戸惑いの意見もあった。しかし、一方で、家族と改めて真摯にディスカッションすることにより、家族の考え方を理解し、自分自身の存在や家族愛など、当たり前のことを、改めて自覚するきっかけになったことは人間教育としては意義深いものであると言える。学生の意見としても、両親の意見を聞く機会が持てたことに対する肯定的意見が少なくなかった。

◆今後の改善に向けて

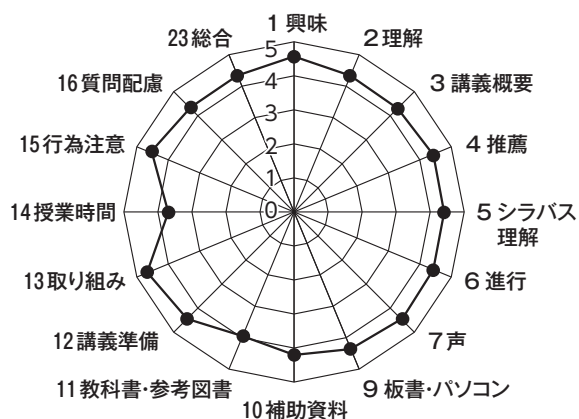
資料提示などを取えてしないことにより、学生の戸惑いがあるようだが、そこは調査することを学ぶ上で大切にしていきたい講義である。十分な学習教材を用意する講義とは違った工夫を改めておこない、学生の自主性を育てたいと考える。

H26 1年生 リハビリテーション倫理1年

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

授業内容については、興味関心はあるが理解については一部の学生の中で十分ではなかったことが伺える。

授業方法については、板書が教室の環境上、スクリーン使用中はできなかったことが影響しているか全体的なグラフのバランスは取れており、総合評価としてはよいと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

83名中、12名が何らかの不満・改善点の提示をおこなっている。大半の学生は今後の職業上に必要な知識として捉えて積極的に評価していた。

また、知識の定着を図るための「ふりかえり問題」はおおいに役立っていると評価する学生が大半であった。

講義内容：社会保険について理解がしづらいつ感じている。盛りだくさんの内容で大変だった、進行速度が速くて理解に時間がかかると感じている。(6名)

資料が見やすい、事例の話がイメージをしやすく出来た、ビデオが理解を助けていた、等の感想が大半である。一方で、進行が早く理解するまでに時間を要した、ふりかえりシート作成時間が少ない、ホワイトボードの文字が見えづらい、学ぶ内容が多い、学生を受け身にさせ過ぎ、もっと学生参加型の授業展開が望ましいなどがある。

私語について：多くの学生は適切な注意をしていたと評価しているが、3名ほどは注意の方法が甘いと評価している。

◆今後の改善に向けて

時間配分をより一層厳格に行い、パワーポイントと黒板の併用利用を可能にする。

レジュメのボリューム（内容）の再検討を行う。

取り扱う内容は維持し、その分、わかりやすく解説する。

私語についての注意方法を再考する（厳しくする）。

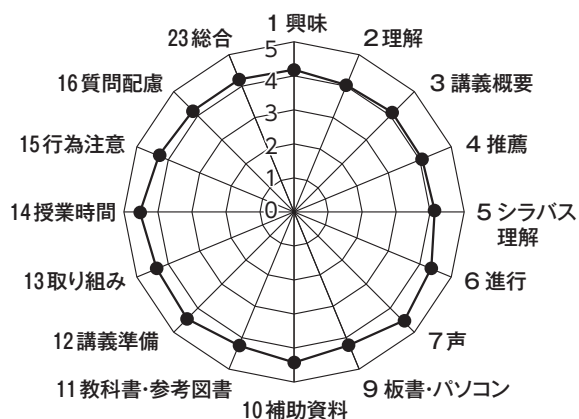
ただし、大学生としてそのことを尊重する姿勢は崩さない。

H26 社会福祉学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

授業時間に関する項目が若干低めであった。他の講義とのかねあいでは、変更が多く学生には負担をかけてしまった結果であろうと反省すべき点である。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

障害者スポーツイベントなどのボランティアが義務づけられているが、学生は積極的に参加し、また、それによって得られた体験が有意義であったと思われる。一方で、学習意欲という点で全ての学生が十分に高いモチベーションを持って取り組めたかどうかは疑問が残るところである。

◆今後の改善に向けて

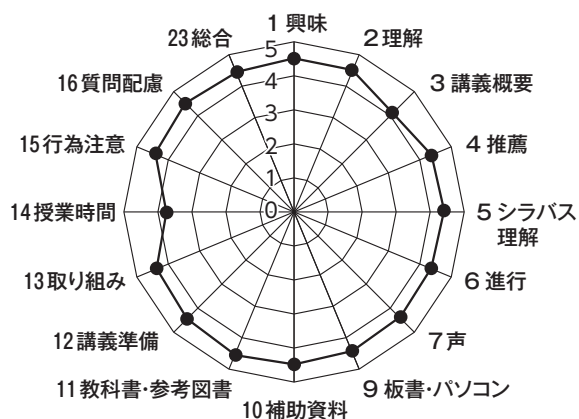
障害者スポーツという、一般ではなじみが薄い分野であったこともあるが、理学療法士、作業療法士になるにあたって必要な側面であり、この分野における理学療法士や作業療法士に対するニーズも高い。今後一層、学生の積極的な取り組みを促す工夫を検討していく。

H26 障害者スポーツ演習

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

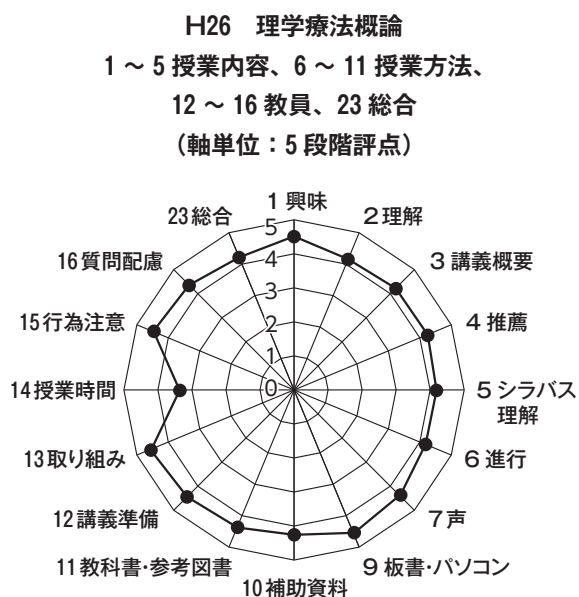
授業時間に関する項目が、点数が低い点が大きな課題である。当該科目は、必要な内容に対して授業時間数が短く、講義時間を延長して行うことが多かった。しかし、学生にとっては、その重要性を十分に理解できずにいる者が少なからずいることが示されている。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

理学療法に対する理解を深めるには十分ではない部分も有りそうだが、一方で理学療法士になるためのモチベーションを向上させるきっかけになった様子が伺える。この科目で基本的な理学療法士や理学療法を理解した上で、次に行われる数々の専門科目の理解につながることを期待したい。

◆今後の改善に向けて

講義時間の延長など、あらかじめ開講時間の工夫が必要である。



担当教員

鳥居昭久・加藤真弓・林修司・宮津真寿美・荒谷幸次

◆集計データ結果について

概ね高い評価であったと思われる。平均的に高い結果であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

理学療法の臨床に向けて具体的な治療学や技術の紹介が多く、臨床実習を終えた学生には興味深い内容であり、学習意欲も高いと思われた。学生にとっては、一つ一つの技術の習得には至っては居ないが、卒業後の研鑽のきっかけになることを期待したい。

◆今後の改善に向けて

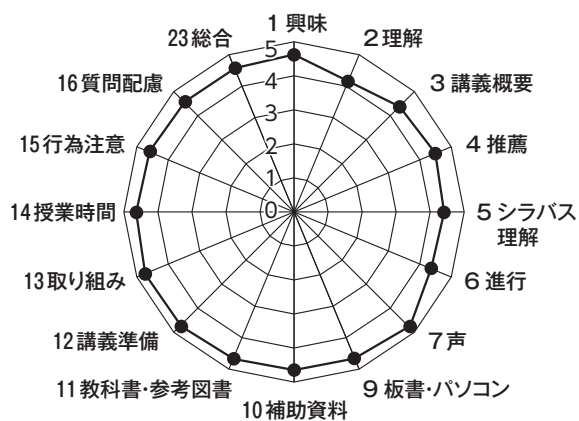
カリキュラムの変更に伴い、次年度からは当該科目は無い。

H26 理学療法特論

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

全項目において4点を越えた結果になった。「理解」の項目はやや低い評価となった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

本講義は、グループワークを中心に講義テーマに即し臨床運動学の理解と実施する方法について学んだ。動作分析が難しいとの意見が多くあげられた。しかし、グループワークにより、「多くの意見を聞くことができた」や「自ら学ぶことができた」との意見も見られた。グループワークの時間に対し、解説時間の不足を指摘する意見があった。

◆今後の改善に向けて

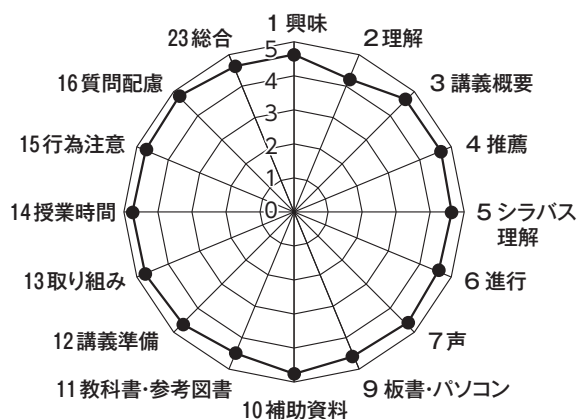
グループワークの形態により学生同士の意見交換や発言を促し、自ら学ぶという方向を継続する必要があると考えられる。学生が学んだ内容を学生とディスカッションし、学生の理解を深める方向に展開することで、解説時間の不足を解消できると考えられる。

H26 臨床運動学(PT)

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

全体的に各項目の評点は変わらず、特徴の無い結果である。詳細にみると「理解」の項目と「教科書・参考図書」の項目が若干低い評点であった。

1年生での開講科目であり、専門基礎的な内容であり、解剖学・運動学・生理学のつながりを意識させるため若干難しさを感じていたと考える。また、教科書をもとに作成したプリントを配布し、それを中心に進めたため教科書そのものに触れることが少なかったことが理由と考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

作成したプリントが理解しやすさにつながったとの意見がみられた。講義の授業ではあるが、できるところは実技を交えながら説明したことも評価されていた。総論ということで基礎的な知識の復習を含め理解を促しているため、その点は実施できていると考えられる。

しかし、評点では若干低めなこともあるので、記載のない学生のなかにはまだ、不十分な部分があると考えられる。

◆今後の改善に向けて

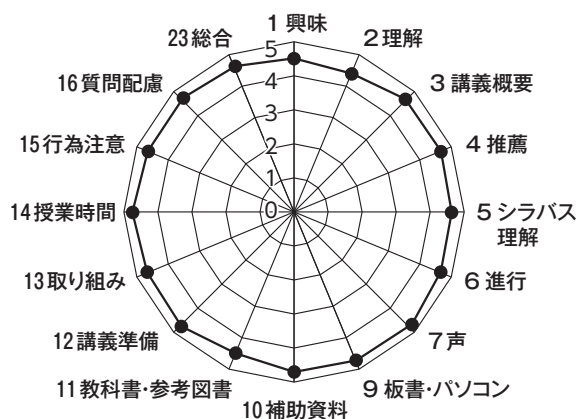
専門基礎としての位置づけで、今後の専門分野の科目につなげていく必要がある。基礎知識をどのように使い、専門分野の内容を理解していくのかを自身で考えていく必要がある。現在はプリントの配布やスライドの利用をした情報を提供する形での授業であるため理解しやすいとの評価と考える。今後は学生自身が教科書を調べるようなプリントやスライドづくりを通した授業を展開していく。

H26 運動療法総論

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

検査測定法は検査の概念や方法などを理解する講義型授業で、検査測定法実習は実技練習を繰り返し理解する実技型授業である。複数の教員が同時に入る為、学生が質問しやすい形式をとり、予習理解を促すために小テストも実施している。学生同士の健康体での実習なので検査肢位や検査方法を患者に置き換えるイメージに苦しみ「理解」が低く、また学生自身が計画を立てて進めていく形式のため「進行」も低いと伺える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

教員が複数授業に入るの為、学生が質問しやすい環境であったという意見が多く見られた反面、内容量が多い為時間が少ないという意見も見受けられた。

◆今後の改善に向けて

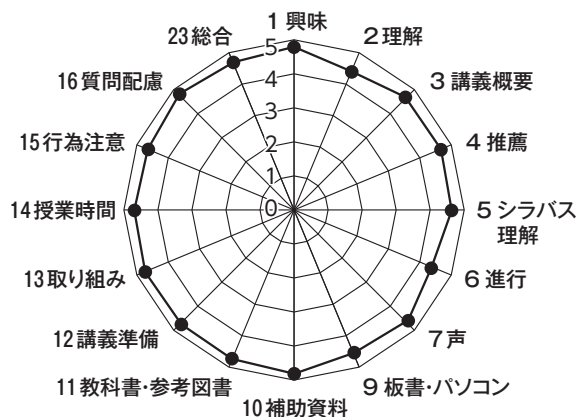
実技練習が主で理解内容も多い為、DVD教材での予習を更に強化し、学生からの質問や疑問を積極的に取ることが必要と考える。また、実技練習形式の為、学生の集中が途切れて雑談の場にならないように後半に実技発表等の工夫が必要と考える。

H26 検査測定法・実習

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

集計結果より、「理解」の点数が低かった。それ以外は4点台後半であり、おおむね良好な結果であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

消極的意見としては「早口、説明がところどころ不十分」という記載があった。それ以外に特筆すべき自由記載は見当たらなかった。

◆今後の改善に向けて

今年度もアクティブラーニングに基づく授業展開をした。グループワークにて学生間、学生—教員の意思疎通を高めることができより理解度を高めることができる。

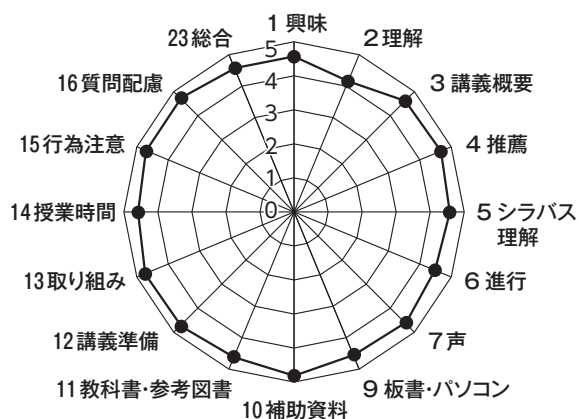
理解を高めるために、来年度は、配布資料を増やしポートフォリオ作成を徹底し、学修プロセスを学生自身に振り替えさせる機会を多くとること、またフィードバックの時間をしっかり取り、やりっぱなし学修にならないようにしっかりとした授業構成をもう一度考え直したい。

H26 理学療法評価法

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



担当教員

鳥居昭久・山田正人・加藤真弓・宮津真寿美・林修司・荒谷幸次・木村菜穂子・松村仁実
河野健一

◆集計データ結果について

集計結果より、「理解」の点数が低かった。それ以外は4点台後半であり、おおむね良好な結果であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

消極的意見としては「早口、説明がところどころ不十分」という記載があった。それ以外に特筆すべき自由記載は見当たらなかった。

◆今後の改善に向けて

今年度もアクティブラーニングに基づく授業展開をした。グループワークにて学生間、学生—教員の意思疎通を高めることができより理解度を高めることができる。

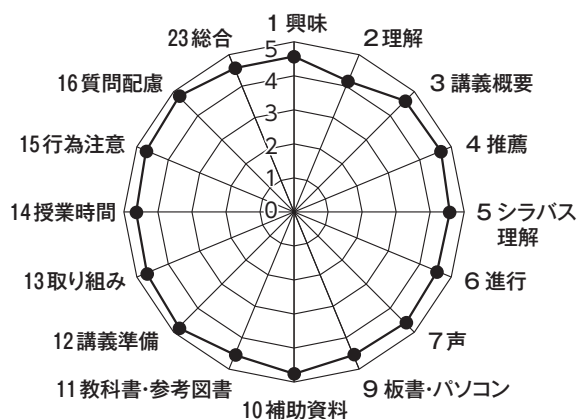
理解を高めるために、来年度は、配布資料を増やしポートフォリオ作成を徹底し、学修プロセスを学生自身に振り替えさせる機会を多くとること、またフィードバックの時間をしっかり取り、やりっぱなし学修にならないようにしっかりとした授業構成をもう一度考え直したい。また、本科目の成績評定は理学療法評価に必要な総合知識、基本的な評価技術を、筆記試験、実技試験で問うている。特に、実技試験については評価基準をより明確なものにしながら学習到達度を示し、それに向けた自己学習を促すことでより理解度が深まると考えられる。

H26 理学療法評価法実習

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

ほとんどの項目で4点以上であったが、「理解」の項目は低い結果となった。続いて「進行」の項目も若干低い結果となった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業内容の難しさと、進行が早いとの意見が多くみられた。新カリキュラムとなり、昨年度よりも時間数が減ったことにより、内容の吟味を行い実施したが、学生からは内容に対する授業時間の不足を感じ、授業時間の増加を望む声もあった。また、他の科目の理解が必要なことに気がついた学生や、難しいながらも興味をもって取り組んだ学生もいた。内容の難しさを限られた時間の中で、理解できるような授業構成が課題と考えられた。

◆今後の改善に向けて

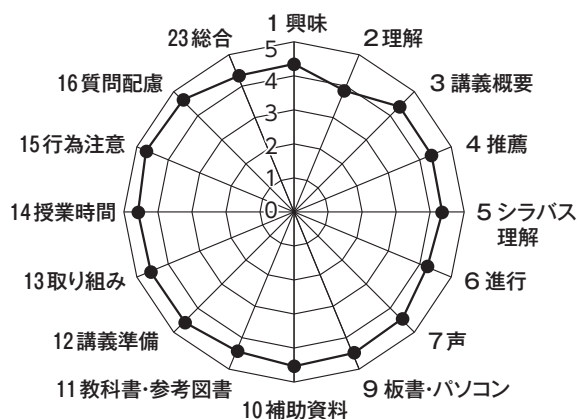
シラバスで示す講義テーマの構成の中で、より理解しておくべきポイントを整理し学生に提示できるような工夫と、学生に対して自己学習で行うべきポイントを具体的に示す必要があると考える。

H26 中枢神経系障害理学療法治療学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

全項目の評点が4点前後であった。特に「理解」の項目が低い評点であった。中枢神経系疾患に対する治療学という専門的な内容であるため、基礎的な知識の理解も重要であり、その部分が不足していると特に難しいと考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

一番多かった内容は、難しいということであった。次に、授業時間の増加の希望があった。実習前に理解しておく必要がある内容を考えると、説明や実技を多く盛り込み授業数に対する内容としては増やし過ぎた可能性が考えられる。その分、それぞれの理解が浅く、詰め込むことで理解としては特に低くなったこととつながると考えられる。

◆今後の改善に向けて

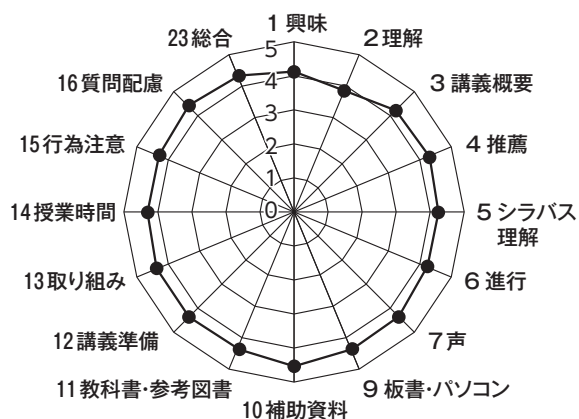
実習前に理解しておく必要がある内容は、減らすことは難しい。限られた時間の中でそれらを学び、体験しておくことは必須である。授業方法としてプリントやスライドを用いた説明と実技の体験を並行して行っている。知識の整理や技術の習得などは予習・復習の課題として位置づけ、予習・復習の内容を明確にし、習得しやすいような課題の設定を工夫する必要がある。

H26 中枢神経系障害理学療法治療学実習

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

すべての項目について、5段階中4であり、評価に関しては概ね良好であった。しかしながら最も低かった項目については「理解」、「講義概要」の項目であった。より理解が進むように、講義予定、内容を整理する必要がある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

良かったと思う点については「教科書とスクリーンが一致していてわかりやすかった」、「スライドが分かりやすかった」などがあり、学生にはビジュアルで示すのは重要であると思われ、今後も継続してスライドを使っていたい。一方で改善すべき点について「教科書の内容を読むだけ」また「授業変更を早くしてほしい」という意見もあり、改善が必要である。

◆今後の改善に向けて

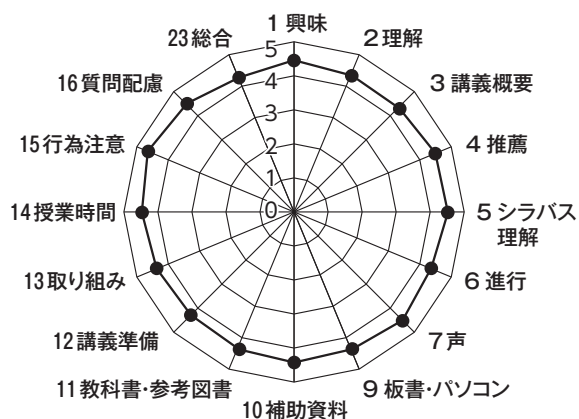
学生からは、概ね良好な結果ではあったが、よりよい授業にする為に学生評価で比較的点数が低かった項目を意識していきたい。具体的には「理解」、「講義概要」であった為、授業の工夫及びシラバスに沿った計画的な授業計画を立てていく必要がある。

H26 整形外科系障害理学療法治療学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

本講義は治療学と実習を明確に分けることが難しい為、主に実技の講義内容を実習と定義し評価を行ってもらった。整形外科系障害理学療法治療学と並行して進行していたこともあり、治療学とほぼ同様の結果となった。すべて4以上であったが「理解」、「講義概要」が若干他の項目より低かった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載は少人数であったが「検査の所、大切な所、注意する所を聞けてよかった」、「実技をみせてくれる所がよかった」、「実際に行いながらの為理解しやすい」という意見があった。自由記載の内容を検討すると、実際の実技を行うことで、座学で講義した内容をより理解が深まり、興味が沸くようである。今後もこのような形態で講義を進めていきたい。

◆今後の改善に向けて

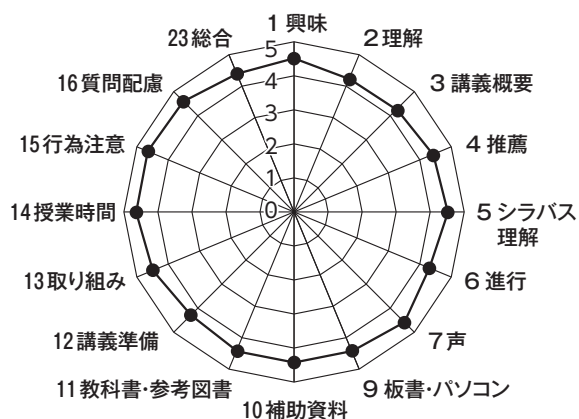
治療学実習と同様であるが「理解」、「講義概要」が若干低い為、今後は少しでも改善するよう努力した。今後は学生の理解が深まるよう、また授業計画を入念に立てるように心掛け改善していきたい。

H26 整形外科系障害理学療法治療学実習

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

おおむね 4.5 以上の評価であった。唯一、「理解」のみ 4 点台前半と低値であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載の消極的意見の内容として、「試験が難しい」、「試験範囲が広いため数回に分けて実施してほしい」、「早口でときどき声が聞き取りにくい」、「授業のペースが速い」との記載があった。実際の評定においても、C 判定の学生がほとんどで理解度が十分とは言えない。別の角度からみると、到達目標が高すぎる可能性もある。そのあたりを来年度に向けて改善していきたい。

◆今後の改善に向けて

まず、到達目標をもう一度考え直し、筆記試験だけでなくポートフォリオを評価基準に入れることにする。そのためには配布資料を再考し、学生が学修過程を振り返った時に、知識を呼び起こせるような内容を検討する必要がある。

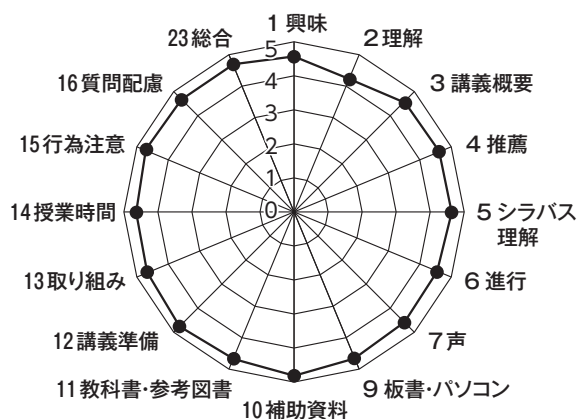
国試合格レベルを最低基準とし、それに加え臨床実習において有用な情報提供ができるよう、かつ理解をより実感できるような授業構成を心掛けていきたい。

H26 内部疾患系障害理学療法治療学・実習

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5 段階評点)



◆集計データ結果について

小さい子どもと接する機会が少ない学生にとって「小児」というイメージが湧かず、苦手意識の強い科目の一つである。学生自身が成長してきた過程である「正常発達」を再確認し、就園・就学・就労等の環境変化時の大切さを理解し、障害学へつなげていく授業内容である。イメージ困難であるが生まれてから現在に至るまでの自身の成長再確認の楽しさがあり、「興味」「理解」等の項目が低すぎず、小児に対する苦手意識を少しずつ払拭できている結果と考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「子どもに慣れていないため嫌いだったが、少し興味を持つことができた」という意見が多く、小児分野の苦手意識が少し払拭できたと考える。

◆今後の改善に向けて

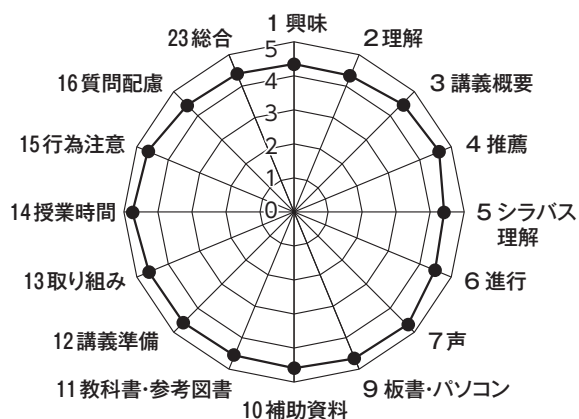
子どもの正常発達の理解イメージを深めるために、視聴覚教材と教科書と講義用プリントの使い分けを更に工夫し、地域理学療法実習の保育園事業との連携を高め、小児分野の知識向上に努めていく。

H26 小児疾患系障害理学療法治療学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

小児疾患系障害理学療法学同様、学生の苦手意識の強い科目である。正常発達を理解した上で、小児分野での理学療法士の関わりのおお切さと、小児疾患の理解と障がい児の成長過程への介入についての講義と実技を交えての授業内容となる。成人である学生同士での実習や赤ちゃんの人形を使用しても理解向上が難しいと思われる。そのため、「興味」「理解」の評価が低いと考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

子どもに興味を持てたが難しかったという意見が多く、小児分野に対する苦手意識の払拭はできたと考えられる。しかし、対象が子どもで理学療法を進めていく上でセラピストの身体を道具として治療を進めていくことの難しさやコミュニケーション困難な中で治療展開していく難しさの理解ができ、それを学生自身に置き換えイメージする事の難しさに苦しんでいたことがよく分かった。

◆今後の改善に向けて

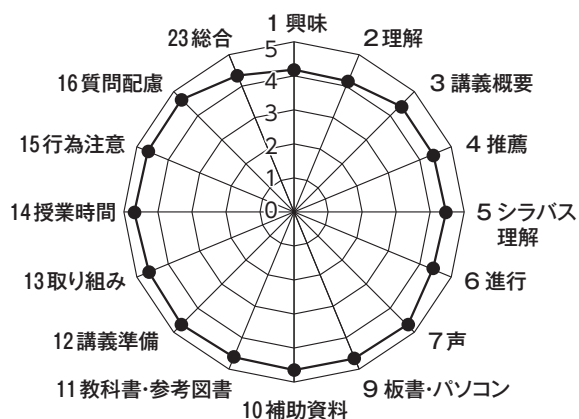
地域理学療法学実習の保育園事業での園児とのコミュニケーションを基に、障がい児への治療介入方法に対する実技練習を増やせるように工夫していきたいと考える。

H26 小児疾患系障害理学療法治療学実習

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

学生の皆さんのアンケート結果は、概ね4以上という高めの評価であった。しかし、興味や総合評価は高いものの、講義の進行においてやや低い点数となった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載欄には、「授業内容がプリントにまとめてあり、よかった」「スライドを使った講義でわかりやすかった」「教員の経験から実例を交えて話があったので、想像しやすかった」など、私自身が講義をするにあたって、工夫している部分を評価された記載が多かったように感じた。ただ、やはり「時間配分は改善すべき!!」「後半ペースが速くて理解が難しかったので、授業のペースを一定にしてほしい」というように、アンケートデータでもみられた講義の進行に対する意見もあった。

◆今後の改善に向けて

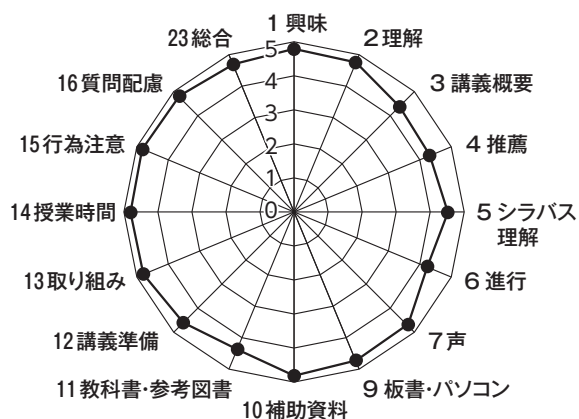
この講義は、新カリキュラムでスタートしたため、本年度が初めての講義である。講義内容は、前年度まで「地域理学療法学」で行っていたものの一部であったが、私自身講義時間数と講義内容（分量）を少し読み間違えてしまい、学生の皆さんには負担をかけてしまったと反省している。割り当てられた講義時間数の中で、最大限の知識や内容を伝えるよう、来年度はしっかりと見直しをしたいと考えている。ただ、理学療法の専門科目としては前期の早い時期に開講されたにもかかわらず、かなり興味を持っていたようであり、自由記載欄にも講義の工夫に対してよい評価であった。この点に関しては今後もさらに良いものになるようにしていきたいと思う。

H26 老年期障害理学療法学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



担当教員

加藤真弓

◆集計データ結果について

4点台で概ね良好な結果であるとする。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

半数以上でグループがよかったという肯定的意見があった。今回、反転授業、アクティブラーニングを取り入れた結果であるとする。方法は、疾患の病態生理・医学的治療・リハビリテーション・基本的なセルフケア・起居移乗移動訓練方法・リスク管理などをグループ内で分担し授業前にA3用紙1枚にまとめる、事前提出する。授業当日、それをもとにグループ内で実技を交えながら教え合い、知識等をシェアする。その後、まとめとして全体説明を行った。そのため、「自己学習して説明することが理解に繋がった」「他の人の意見を聞くことができ良かった」「実技と合わせて勉強することができた」と好評であった。しかし、自己学習内容に個人差があり、内容不十分な学生もあったため、それが影響したとの意見もあった。

他に実技時間に対する意見として、「実技が多くあって良かった」との意見が多い反面、「実技時間が短かった」との意見もあった。

反転授業、アクティブラーニングを取り入れたことによって、学生の勉強に対する意欲を引き出すことが多少はできたのではないかと考える。

◆今後の改善に向けて

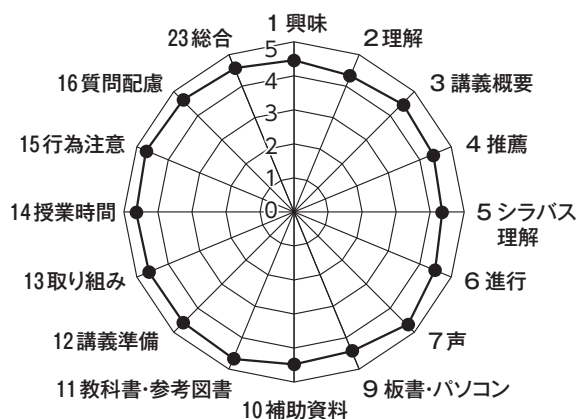
事前課題内容に個人差が出ることに對し、内容チェックは必ずしていたが、やり直しはさせていなかった。各グループで指摘し合って改善してもらうことがねらいであったためである。そのため、その趣旨も伝えた上で授業を行いたい。授業方法については、今後も同様に行おうと考える。

H26 日常生活活動学・実習

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

全般的に授業内容、授業構成は4点台前半であった。理解については若干低い点数になっていた。

この授業はあくまでも実習（物理療法に関する実験）なので、実習課題とそれに対するレポート作成が講義の中心となる。したがって、この授業評価アンケートでは適切に授業評価を反映できていない部分もあると理解して結果を解釈する必要がある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載では、特筆すべき記載はなかった。残念であった。

◆今後の改善に向けて

物理療法学とのつながりがかなり強い授業であるため、物理療法における到達目標とその理解度を踏まえ、実習課題やその難易度を考えていくことで理解度の深まりが違ってくると考えられる。今年度いえる反省としては、実習課題とその結果において仮説通りにならない現象が多くみられ、学生自身考察に苦慮している部分があった。

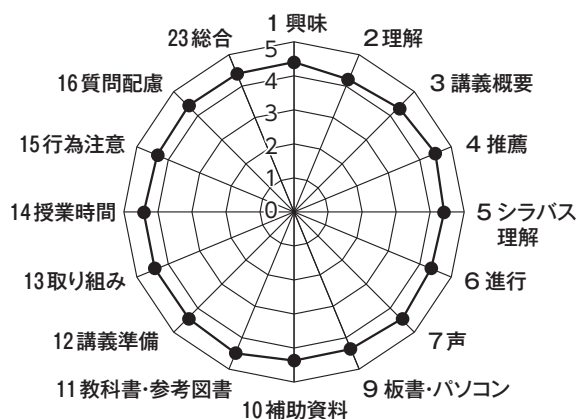
そのあたりをもう一度整理し、理解しやすい実習課題を組み立てることを今後の課題としたい。

H26 物理療法学実習

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

概ねバランスの取れた高得点の結果であったといえる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

スポーツに興味のある学生は少なくなく、この科目に対するモチベーションは高かったように思われる。しかし一方で、実技系の内容を多く求める意見が少なからず感じられた。

スポーツ理学療法はテーピングなどの技術的な要素が有り、その点で十分な時間が取れなかったことが悔やまれる部分であろう。

◆今後の改善に向けて

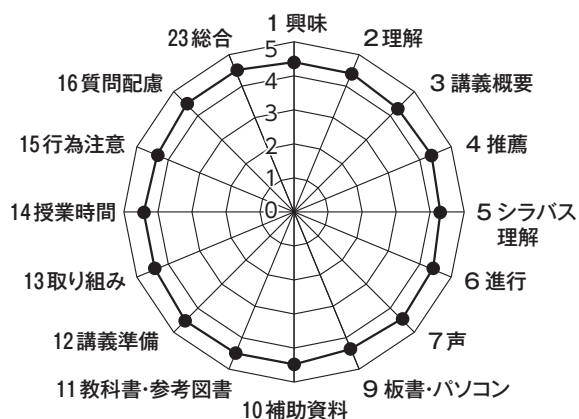
当該科目は、新カリキュラムでは開講しない。

H26 スポーツ障害理学療法学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



担当教員

木村菜穂子

◆集計データ結果について

この講義に関しては、かなり良い評価であった。2年次最後に開講するため、臨床実習等のこともあるのか、学生の興味も高く、また講義の進め方なども大きな問題はなかった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「いろいろな具体例が楽しかった」「資料（ノート代わりに書き込める）があったのでよかった」などの私自身の講義の工夫に対して、概ねよい評価であった。また、多かったのは「グループワーク（ケアプランの作成）は大変だったけど、多くの人の意見が聞けて、いろんな視点から見ることができて良かった」という意見である。

このグループワークは、学生と同様、チューターの役割を果たす教員自身も大変であるが、このような感想に、とてもうれしく思います。

◆今後の改善に向けて

私自身が思うよりも高い評価であった。しかし、やはり制度論の部分は難しいという意見もあった。ここをどのようにしっかりと理解してくれるかは、さらに講義内容や方法を工夫する必要があると感じている。

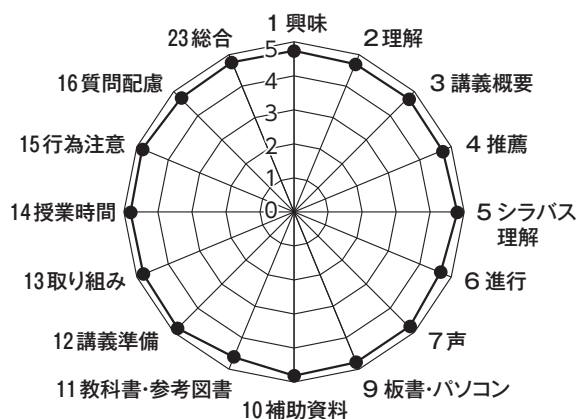
その他、好評だった部分については、今後も継続していきたい。

H26 生活環境論

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

今年は、例年と比べて若干厳しめの評価であった。概ね4以上であるが、「興味があるか」や「理解が十分か」「講義の進行は適切か」に関してはかなり低くなっている。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載欄では、「パワーポイントが見やすい」「実例や教員の経験を具体例として交えた内容がわかりやすかった、楽しかった」などのうれしい評価もあったが、やはり「内容が難しかった・理解しにくかった」や「講義のペースが一定でない」との意見もあった。特に、試験の直前に講義を行ったことは、かなり学生の皆さんに負担をかけたようで、そのことに関する意見が多かった。

◆今後の改善に向けて

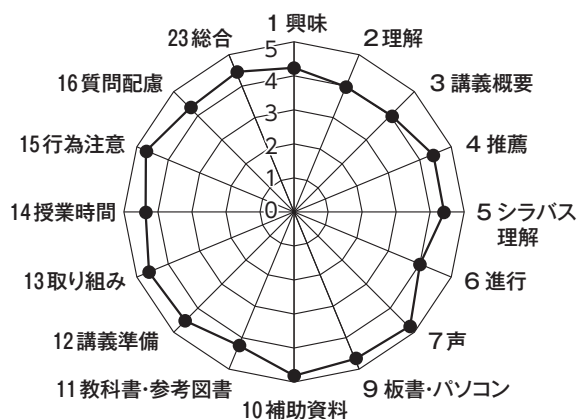
講義内容に関しては、制度論（主に介護保険制度）が主となってしまっているので、あまり興味を持たない部分かもしれない。しかし、今現在高齢者が置かれている状況と、これからのリハビリテーションや理学療法士に関与するであろう方向性を理解するためにも、避けては通れないと考えている。今後は、理解してほしい内容は変わらないが、できるだけ学生の皆さんが興味を持てるような工夫（新聞などからの話題提供など）をしていく必要がある。

H26 地域理学療法学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

本講義の評価結果は、円グラフで見るとおおよそ「4～5」程度で円形となっている。やや、「理解」の項目の点数が低かった。これまでも課題となっていたが、「理解」の項目の低さに対する対応が必要であったため、今回の講義でも、これまで課題であった理解をする必要のある範囲や段階を示しながら、能動的に楽しく参加できる内容を工夫した。また学生同士で意見交換をする時間をつくり、深く考え、理解できるようになるプロセスを踏むことができるように配慮した。またこれまでと同様に、主体的に理解を深め、興味を持つことができるよう、能動的に理解したことを表現する機会を設け、学生は個々に理解できた範囲で自分の言葉で説明する機会を持った。またいつでもわからないことは教員に聞くことができるように配慮した。これらの内容を考慮した本講義の実施によって、総合的に「4」以上の点数が結果として出たものと考えられる。

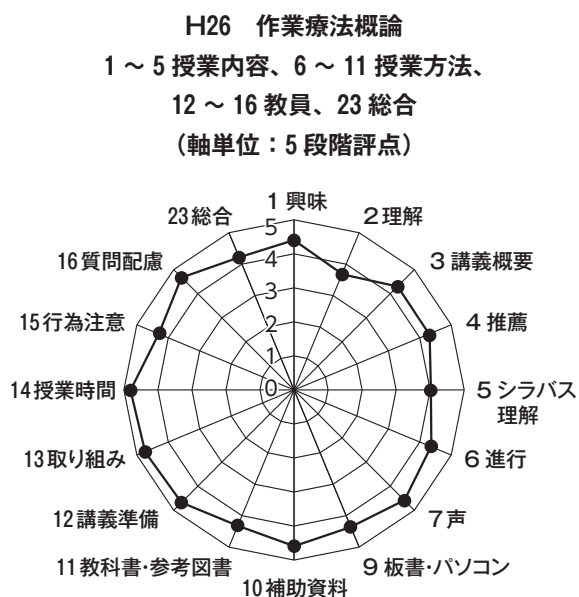
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

講義に対して、「意見交換がたくさんできて理解が深まった」「みんなで考えることが楽しかった」などが、良かったこととして挙がり、また「難しかったが深く考えることができた」などの意見があり、おおよそ本講義で教員が目標とした成果が出ていたことが推測される。

しかし、改善すべき提案として「難しかった」「わかりやすく説明してほしい」などの意見が挙がった。

◆今後の改善に向けて

能動的に参加でき、楽しく作業療法を学び、その講義に、学生が全員参加できるように配慮することを検討していきたい。また、教員からの説明をする形式で講義を進める際には、より具体的で、わかりやすい表現を工夫することが検討課題となった。学生自らが解決できる方法についても提示しながら、共に考える機会をつくっていきたいと考える。



◆集計データ結果について

ほとんどの評価は、平均④「どちらかといえば、そう思う」であったが、「2. 理解」、「4. 推薦」が4を切る評価となっていた。この原因として考えられるのは、研究の進め方や統計法などの内容が難しやすく、理解が深まらなかったと考える。また統計学を前半に持ってきたが、その内容に関して不満を持つものが多かったためである。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載についても統計学に関する不満が多かった。統計学の指導内容についての意見も多かったが、指導方法について多くの学生が不満を述べていた。しかし、指導教員を決める際の先生の研究紹介については「先生の研究が聞けてよかった」などの良い意見も聞かれた。

◆今後の改善に向けて

この授業は常勤職員にて行うことになった。また、教員の研究テーマを授業で報告すること、倫理書類の書き方を重要視する。以下これらの変化の要点を述べる。

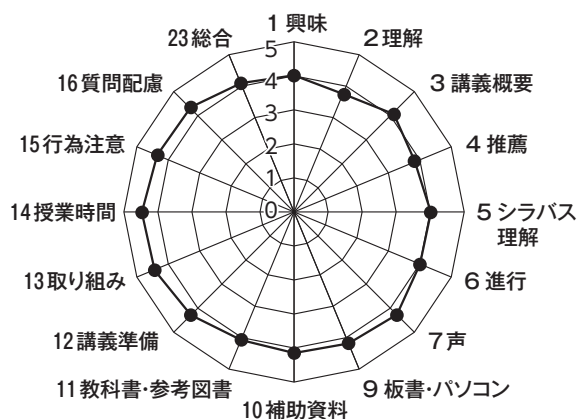
1. 研究で理解が困難な統計学を指導する先生に行って頂き、学生の理解をしやすいとする。
2. 研究計画を記述練習として倫理書類を書くことにより研究の基礎的なことを理解させる。
3. 教員の研究テーマを授業で報告し、学生の興味が持てる研究テーマを自分で選択できるようにする。

H26 作業療法研究法

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

全体に5点が8割前後、4点が2割前後という結果であり、非常に理想的な評価であった。この授業では講義と並行して、障害疑似体験をすべての回で取り入れている。障害を持った方の動作がなぜそうなるのか、教科書の記述を読むだけでは十分に理解できない事象と事象のつながりを身をもって体験することで明確に理解できるようになることを目的としている。いわば「共感的理解」をしながら教科書の概念を学ぶという体験重視型の授業構成である。教科書で学んだ知識をその場で体験し、更なるその解釈の仕方を教科書の概念に戻って確認するというサンドイッチ型の講義形式が、学生にとっては理解しやすいと実感されたのではないかとと思われる。

また、授業予定表には該当教科書のページを記し、教科書の該当部分を読んだか否かのチェック欄を設けた。この工夫が学生の予習復習をしやすいさせたのではないかと推察される。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

体験型学習には「実際に体験したことでイメージがしやすかった」「患者さんの気持ちが少し理解できた」「体験したことを忘れず、介助の仕方を学びたい」「自分たちで考えながら介助の仕方を導き出し、それを講義で確認できたのがよかった」との肯定的な意見が大多数であった。講義を聞き、体験し、考え、それを講義で補足するというサンドイッチ型の授業形態が学生に受け入れられたことがわかる。「授業時間数が足りない」「もっと体験したかった」との声も少なくなく、限られた時間の中でいかに効率よく授業を展開するかが課題となった。

予定表のチェック欄についても「チェック欄があるから教科書を読もうと思えた」との意見があり、一定の効果があったことが伺われた。

一方、「私語への注意」「部屋が広く声が少し聞きづらかった」との意見が、1件ずつではあるが改善すべき点として挙げられた。体験型授業のため広い実習室で行ったこと、学生同士の話し合いも重要な体験の一環と位置付けていたため私語への注意は必要最低限としたが、めりはりのある指導の重要性が課題となった。

◆今後の改善に向けて

この体験型（サンドイッチ型）の授業形式は、今後も継続していく予定である。昨年度までの効果測定では、本授業で得た学びは、臨床実習でも活かされた学生が多かったとの結果が示された。ただ、臨床実習では動作分析ができないとの指摘を実習指導者からよく受ける。体験したことを観察行動に般化させる過程の教育方法を確立していきたい。

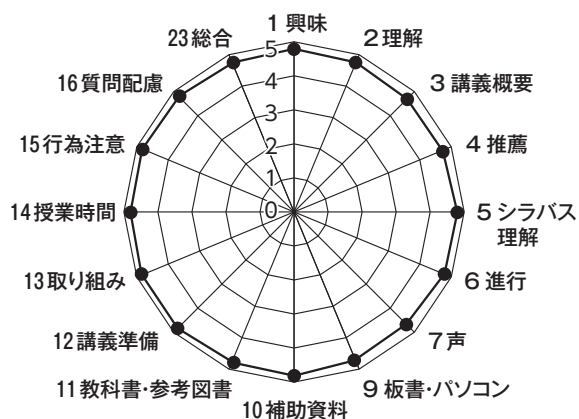
また、各回の授業の流れについて改めて整理し、教員の声を集中して聞ける時間帯をしっかりと確保するよう努めたい。

H26 臨床運動学(OT)

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

全体的な評価は平均④「どちらかといえば、そう思う」以上であったため、授業は概ね学生の期待に添えたものであったと考える。ただ、その中でも「2. 理解」、「3. 講義概要」の問いの評価が低かった。

その原因は、授業の進め方として教科書を読み、そのことを概説する形態をとっているため、言葉などが難しかったと思われる。また、この授業は1年生の前期の授業であり、高校を卒業して大学の授業として戸惑いや専門用語の理解不足があった。加えて、教科書の全部を行うのではなく、大切な部分のみの解説となるので概要に沿っていないこともあったためと考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載としてあげられているものは以下のものであった。1) 感想では、「楽しかった」「作業について知ることが出来た」「覚えることが多く大変だった」「OTの基本知識だと意識し取り組めた」「作業について知れてよかった」「色々なことが知れてよかった」など良かった点を書いている人が多かった。ただ「難しい言葉がたくさんでてきて、難しかった」など授業内容について不満も述べてあった。2) 改善すべき点では「テストの解答を統一する」「教科書を使う時間少ない」が挙げられていた。

◆今後の改善に向けて

以下の項目について改善を図りたいと考える。

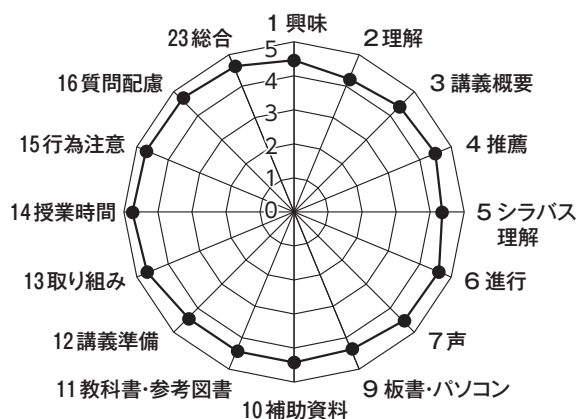
1. 教科書の説明の時言葉に注して簡単な言葉で置き換える。
2. 専門用語など詳しく、わかりやすい言葉で解説するようにする。
3. 自主的に取り組めるような時間も取り入れていき、学生の主体性を引き出したい。
4. 問題に関しては統一した問題を作成したい。

H26 基礎作業学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

全体として、4～5点の間におさまっており特に大きな問題は無いと思われる。学生の主観であるので、学生は概ね満足しているのであろうと考えられるが、果たしてそれだけで良いのかについては疑問が残る。そのことについては、今後検討が必要と考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学生のほとんどの記載で、「楽しかった」との感想があった。しかしながらどのように楽しいのかについては記載がないため、今後活動を治療として用いる際に、クライアントの「楽しかった」「楽しくなかった」の感想に一喜一憂する可能性があると考え。クライアントの「楽しさ」はどのようなことなのかについて、今後分析し、学生自身が内省などを通して「分かっていく」作業が必要である。

また城南キャンパスのエアコンの不具合があったことをお詫びする。

◆今後の改善に向けて

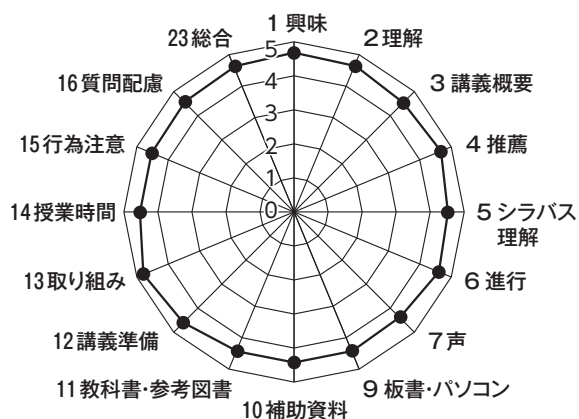
作業療法の治療に活動を用いていくことの意味を学生が捉えられるように、作業の方法のみの教授にとどまらず、学生自身がどのような体験をし、どのような意味を持つ作業となったのかについての分析を進めていけるような授業構築が必要であると考えている。

H26 基礎作業学実習

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

全体的な評価は平均④「どちらかといえば、そう思う」以上であったため、授業は概ね学生の期待に添えたものであったと考える。ただ、評価の中で「1. 興味」「2. 理解」「5. シラバス理解」は④ぎりぎりだった。

その原因は、この授業は評価の概論の位置づけで内容が様々な分野の評価を扱っているためと考える。また、評価を1年生の学生にとっては教科書の内容を理解することは難しかったと思われる。また、シラバス通りに進められなかったことも評価を低くした結果であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由欄の記述では、1) 感想では「治療する上で基準があることがわかった」「わかりやすかった」「症例と結びつけて話されていてわかりやすかった」「様々な項目による評価すべきところを学べてよかった」「話の内容がおもしろかった」などの授業の良い点が書かれていた。反面、「難しすぎる」「言葉の意味が分からない」などの点を記述されていた。2) 改善点としては、「いつも同じ人が当たる」「大事なところはわかりやすく言ってほしい」「テスト範囲をもう少し少なくしてほしい」「自分で作業する時間をもう少しもうけてもいい」という意見が聞かれた。

◆今後の改善に向けて

以上の集計データと自由記載欄の事項を踏まえて、以下のような改善を行っていききたい。

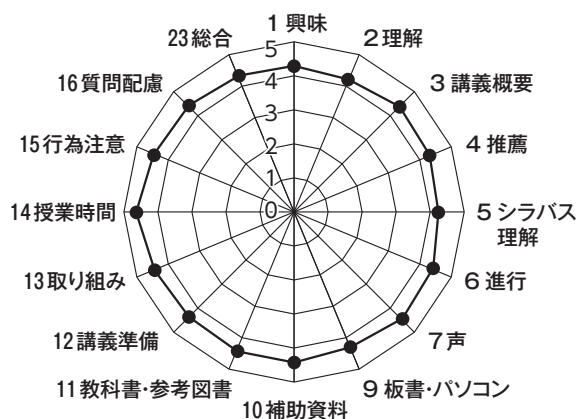
1. 次年度は難しい言葉の理解が出来るように易しく説明する。
2. 評価全体を網羅して行ったが、理解が十分できなかったため、もう少し絞った内容にする。
3. 授業に積極的に参加出来るよう工夫し、テストの範囲も絞った内容に変えていきたい。

H26 作業療法評価法

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

例年通り「理解」の点数が他の項目に比べて低いものになっていた。臨床をイメージし、実際にクライアントを評価する難しさを体験できたのだと思う。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

学生が自分自身に気づくことや、これまで分からないことを後回しにしてきたことが臨床では通用しないこと、などの記載がみられた。

当然のことであるが、今現在（この授業をしている時のこと）は分からなくても将来分かることがあるのだと理解すれば、今の自分自身がそのまま将来の自分自身ではないことが理解できると思う。

このように時間的展望を持つことができた学生は、おおきな収穫となったのだと思う。

つまり「分からないこと」が「分かったこと」は大きな発見であり、今後の学習が大いに進むのであろうことが期待できる。

また、スーパーバイザーとしての教員を設定したが、学生の評価は、このスーパーバイズを通して沢山の気づきがあったこと、また助けられたことが記載してある。他人に援助を受けることを学んだ人は、よき支援者となると考える。

◆今後の改善に向けて

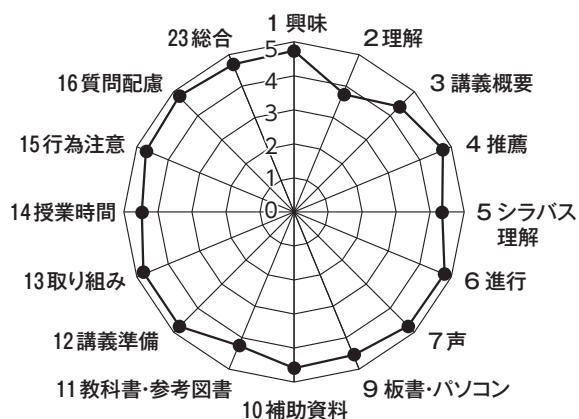
今後も同様に授業を計画するが、教員・学生ともに負担が大きいため、教員をクライアントに見立ててきたが、学生同士が知り合っていく、教員と学生が知り合う、といった場面を想定し展開していくことが望ましいと考える。

H26 作業療法評価法実習

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

おおよそ7～8割の学生が5点、2割前後の学生が4点という結果で、理想的な評価であった。ただ、各項目1～2名ではあるが、2点あるいは3点の学生もおり、教育効果がすべての学生にいきわたっていない現状がある。

本講義で工夫している点としては、1年次に学んだ解剖学や運動学の知識の復習に時間をかけること、講義の合間に体験的な活動を取り入れ講義内容の理解を促すこと、講義には一般向けに書かれた図入りの資料などを補助的に提示すること、毎回講義内容の重点部分に関する小テストを課し次回講義時に提出を求めることの4点である。様々な方面からの支援が、学生の理解を促進し、興味を深める一助となりえていると思われる。

一方で、これは学生にも初めに説明をしていることではあるが、授業時間数の関係で本講義で扱う項目は機能的側面に関するものがほとんどすべてである。機能的側面がなぜOTにとって重要なのかをその都度説明はしているが、特に精神科領域に強い興味を示す学生にとってはつらい時間になってしまっているのかもしれない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

授業の進め方については「1年次に苦手だった神経系の部分が、図などを用いて説明されわかりやすく楽しく学べた」「見学実習で学んだことが活かされた授業だった」「途中で眠気覚まし体験があってよかった」という肯定的な意見がほとんどであった。また課題の小テストについても「課題があったので復習しやすかった」「課題で自分や身近な人に置き換えてみたりすることで理解しやすかった」との肯定的な意見が多く挙げられた。1年次の苦手部分を解消したり、機能的側面のOTにとっての必要性を実感したりした学生が多らしく、授業目的はおおむね達成できたと考える。

一方「解剖・生理学の内容がたくさんありすぎて理解するのが大変だった」「資料が多すぎた」との否定的意見も挙げられた。受講生の中には1年次の基礎科目を未修得の学生も少なからず含まれており、「テストがプリント暗記問題だったのでもっと難しくしても良い」という学生との間で、授業に対する充実感は大きく異なっていると思われる。

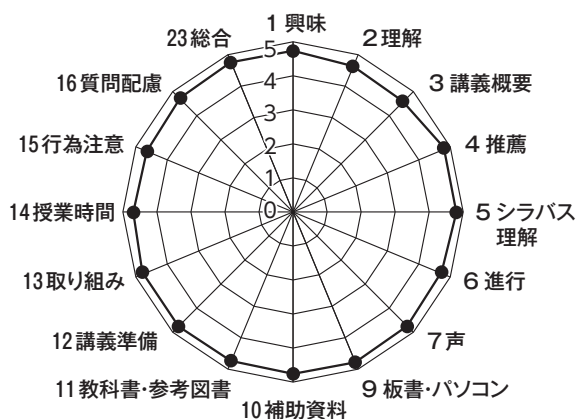
また「寝ている学生にもう少し強く怒っても大丈夫だと思う」との控えめな指摘もあった。これは反省すべき材料である。

H26 身体障害作業評価学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆今後の改善に向けて

本科目は解剖学や運動学など基礎科目の知識を下敷きに進めていく科目であるが、前述したとおり受講学生の基礎科目の習得度が異なっており、学生間で授業の理解度も満足度も異なる。基礎科目の習得度の低い学生には補習的に、理解の十分な学生には発展的に利用できるような課題を更に検討していきたい。

◆集計データ結果について

概ね4から5の間の結果となっており、「理解」に関しては全体的に見て若干点数が低くなっているのは例年通りである。目には見えない「精神」というものを取り扱うため、分かりにくさがあるのは当然であろう。他人を知るために、その他人を知ろうとする自分自身についても知らなければならないといった考えで、この授業を展開しているが、これまで暗記を中心に学習してきた学生にとっては非常に難しい授業となったかもしれない。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

多くの学生が「難しかったけれど、考える良い機会となった」といった感想を記載している。これまであまり考えずに学習してきた学生が多いことは推察できるが、暗記で作業療法は実践できないし、今後差し迫っている臨床実習もそうであろう。臨床実習を踏まえての授業としても実践してきたが、その辺を理解していた学生がいたことは大変うれしい経験であった。

◆今後の改善に向けて

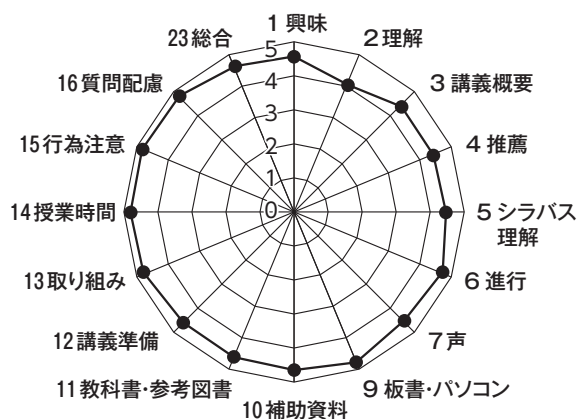
授業の中では、「学習整理表」を用いてきた。そこに「質問表」を合わせた。毎回の授業でその質問に教員が回答する機会を作ったことで学生が言う「考えること」ができたのであろうから、今後も継続して行っていく。一方的な教授とならないように、双方向の授業展開に努めていく予定である。

H26 精神障害作業評価学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

ほぼ全ての項目について「⑤そう思う」の回答が50%以上となっており、学生にとって概ね満足のできる授業であったと考えられる。特に「授業の内容は、あなたにとって、理解しやすいものでしたか」については74.3%の学生が「⑤そう思う」と回答しており、残りの学生も「④どちらかといえば、そう思う」を回答していた。これは人間発達学で学習した内容も復習しながら授業を進めた事で、学生の理解が深まったためであると考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

教科書ではなくスライドとレジュメを主とした授業を行なった。

スライドに関して、「覚えるポイントと理解するポイントを色分けしていたのが良かった」と多くの学生が記載していたが「スライドが暗くて見えにくかった」という意見も挙がっていた。レジュメに関しては「レジュメがとても分かりやすかった」との意見も多くある一方で「レジュメに穴埋め等の項目を作って欲しかった」との意見も記載されていた。

また、理解を促す目的で使用したビデオ教材については好評を得ており「ビデオのおかげでイメージをつけて勉強する事ができた」等の意見が多数記載されていた。

◆今後の改善に向けて

スライドとレジュメを使用した授業形式やビデオ教材の使用は概ね好評を得ていたため、継続していきたいと考える。一方で、レジュメの様式については記入欄を増やす等改善の余地があるため、次年度の講義に反映させたいと考える。

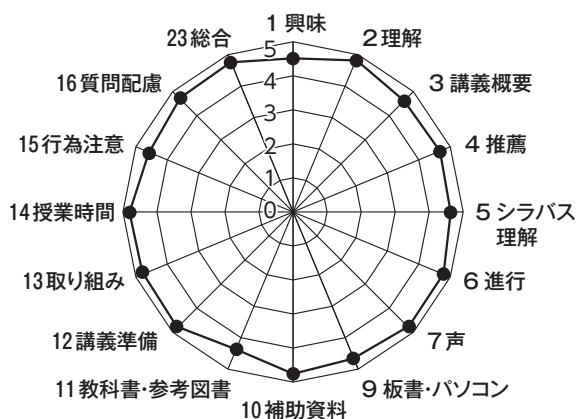
また、評価の一部を経験するなどの時間は設けたものの、授業時間の大半は教員の話聴くという学生にとっては受け身的な講義になっていたと考えられる。今後は、教授すべきポイントは押さえつつ、学生が主体的に考える時間を増やす事のできるような授業展開をしていく必要があると考えられる。

H26 発達障害作業評価学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

本講義の評価結果は、おおよそ「4～5」程度であったが、「理解」の項目の点数のみ、やや低い結果となった。

本講義の参加学生は35人のうち、低い点数より「2」が4名、「3」が9名、「4」が15名、「5」が8名であった。一方、「興味」の項目の点数は、「1」、「2」につけた学生はいなかった。「3」が2名、「4」が17名、「5」が16名であり、難しく理解が困難な点はあるながらも、関心は高く維持されていたことが考えられた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

講義に対して、良かったこととして挙がっていた意見は、「内容はとても難しいものだったが非常に興味深いもので学びがいがありました」「最先端のことを学んでいるなと思った」「作業について深く知れたこと」「プリントが教科書よりわかりやすかった」「難しいと感じたが考え方を将来に生かしたいと強く思う」「難しかったけれどおもしろい授業だった」「難しかったが先生と個別で話すすごくわかりやすかった」「とても興味深くおもしろかった」と、理解が困難な点があるながらも、学ぶことへの楽しさや意欲が引き出されていたことが推測された。一方、改善すべき提案として挙げた意見に、「教科書をもっと使いたかった」があった。教科書の使い方についての議論をする必要があったと思われる。

◆今後の改善に向けて

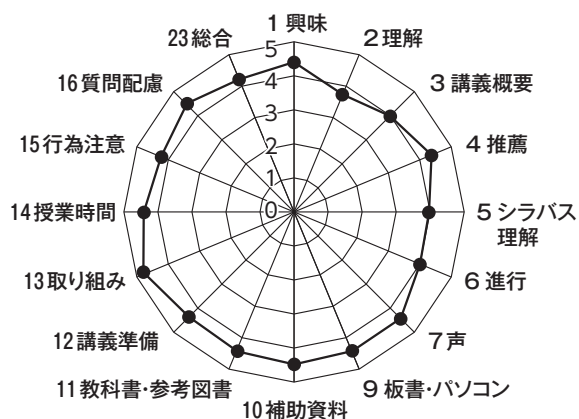
楽しく作業療法の核となる知識にふれ、様々な具体例から「深く考え、意見交換し、自分の言葉で語る経験」を継続すると同時に、その講義に、学生が全員参加できるように配慮することを検討していきたい。また教科書をどのように使うのかについて、具体的に上げていくことで、将来的に教科書を使いこなせることにつなげていきたい。

H26 作業治療学理論

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

すべての項目で4～5点との評価を得たため、授業の内容・方法等について、概ね問題無かったと考える。

詳細にみたところ、すべての項目で『②あまりそう思わない』以下はみられず、「授業中のマイクの使用は適切でしたか」「指定された教科書や参考図書、参考文献などの使用は適切でしたか」以外の項目で『⑤そう思う』が過半数を占めた。以上から授業の進行に関して大きな問題はなかったと考える。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

多くの学生から「実習への心構えができました」「実習の自信がついた」「実習への不安が軽減された」などの記載があり、「考えが変わった」「自分を見つめ直す良い時間になった」「とても深く考え直されるものでした」といった記載もあり、“実習への意識付け”“自己洞察”を促す授業となったと考えられる。

また「先生の体験談が聞けて良かった」「先生の学生時代の話が聞けて良かった」といった記載がある一方、「先生方の色々な話が聞けて良かったが、内容に違いがありすぎてわからなくなった部分がある」「何を伝えたいのか、はっきりわかることとわからないことがありました」「精神的に非常に疲れた」などの記載もあり、担当教員毎に内容が統一されていなかったために、混乱を招いたことも否めなかった。

◆今後の改善に向けて

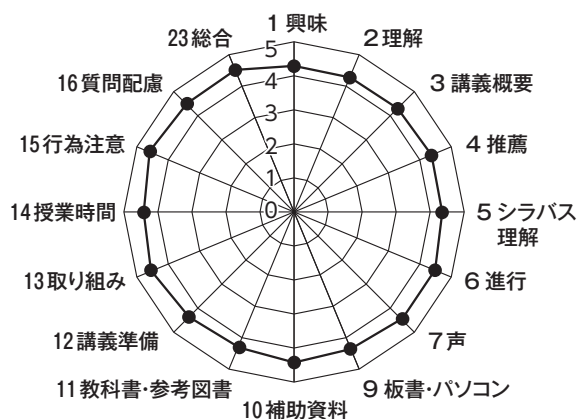
この科目の位置づけは、学生が評価実習・総合実習へ向けて知識を統合し、各自が必要とされる課題を明確にして取り組むための科目であり、その手段は各担当教員に任されている。本来目標達成のための方法は様々であるが、そもそも、学生に知識の統合を求めようとしている段階であるのに、各担当教員の意図を学生が統合できるのか否かを、今一度検討する必要があるのではないかと考える。今後は、学生の状況に合わせて、教員間である程度統制した方法で、授業展開をしていく必要性について、検討していきたい。

H26 作業療法治療学実習

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

全体に5点が5～7割、4点が2～3割、3点が1割前後という評価であった。全体のバランスとしては良い。本科目は2年次の後半に行ったため、臨床実習前の総まとめという位置づけで、架空事例検討を通して作業療法の流れを理解する演習を主とした。各回の流れは以下のとおりである。まずは標準的な臨床実習の流れに沿って、事例と解決すべき課題を提示した。その課題についてまずは個人で思案し、その後考えを披露し合いながらグループで検討してもらった。最後は教員の考え方を紹介し、その考え方に至る根拠を講義形式で示した。ただし教員の考え方が絶対的な正解なのではなく、時と場合によって考え方は様々であることを強調した。一つの課題に対して多方面から思考できる柔軟性を養ってもらいたいとの願いからである。

実習直前の時期ということで学生の学習に対する取り組みも積極さがみられた。毎回授業内で解決すべき課題を提示していることもあり、このグラフには表示されていないが、「21. 予習・復習の時間をとりましたか」にも9割近い学生が5点あるいは4点と回答している。学生の自主的な学習を促進する一助として課題提示が功を奏したのだと考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「事例検討を通して自分に足りていない視点についてわかった」「個人ワークの後にグループで意見交換したことがよかった」「宿題に対してきちんとフィードバックや教員の解説がもらえたことが良かった」「評価から治療の流れが理解できた」「課題の量がちょうど良かった」「今までの授業では一から自分で考えることが多かったが、ある程度の模範的な例が挙げられていたので取り組みやすかった」「教員が教室内を回ってくれるので質問しやすかった」など肯定的な意見が多かった。臨床実習で予測される流れに沿って課題提示したことで、今取り組んでいる課題の位置づけが随時わかり、学習の方向付けがしやすかったのではないかと考える。

一方「1パターンの考え方になってしまうので、様々な考え方を知りたい」「事例検討1つでは意味がない。同じ疾患でも事例によって異なるから、実習で学ばばよい」という否定的な意見も挙げられた。標準的な臨床実習の流れに沿って課題解決する過程を一通り体験しておくことは、これから臨床で様々な考え方を取り入れていく上で大切な基盤となるという教員の思いを受講生全体に伝えていくことの難しさを感じた。

◆今後の改善に向けて

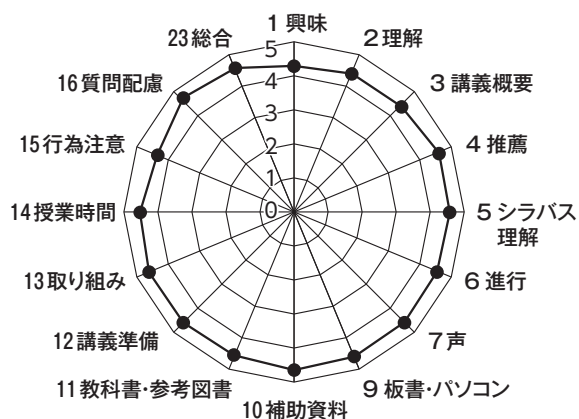
カリキュラムの改正により、本科目だけではなく身体障害領域の作業療法学に関する授業全体で、大幅な授業時間数の削減がなされて初めての年であった。短縮された分どこで何を伝えるか、知恵を絞り、同時に苦悩した一年であった。平成26年度の反省を基に、平成27年度では科目間の関係性を見直し、内容の再配置を試みている。この思考錯誤はおそらく数年に及ぶと予測されるが、他の教員と連携してより効率的で最大限の効果が得られる教育ができるよう検討を重ねていきたい。

H26 身体障害作業治療学 I

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

全体に5点が6割前後、4点が2割前後、3点が1割弱という評価であった。カリキュラムの改変により、身体障害領域の作業療法に関する講義時間も昨年度までに比べて大幅に減少した。その中で本科目の2/3を総論と中枢神経系、1/3を整形外科系の疾患論として分担したのだが、膨大な知識量をわずか30時間の講義時間で教授することの限界と課題を実感した1年であった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

[中枢担当]

「教員の体験談でイメージがしやすく参考になった」「多くのわかりやすい資料が理解の助けになった」「DVD映像が印象に残っている」「実際に体験することで飽きずに授業に参加できた」「穴埋め式のレジュメで授業に集中できた」など肯定的な意見が多かった。

各種資料やデジタル映像の活用、レジュメで要点を強調したこと、体験を交えての実践的な講義などが多面的に学生の理解を促進したと思われる。一方「メモをとる時間を増やしてほしい」「時間が少なく詳しく理解できなかった」「スピードが速かった」との意見が挙げられた。限りある講義時間の使い方が課題となった。

[整形担当]

「自分で教科書を読み理解を深めることは良い学びとなった」「実践的で面白かった」などの肯定的な意見がみられた反面、「レジュメが分かりにくかった」「講義のスピードが速くついていけない」等の否定的な意見もみられた。否定的な意見が挙がった理由として、学生に主体的な学びをしてほしいとの思いから、自らノートをとめるという講義スタイルにしたこと、また、多くの知識を得てほしいとの思いからポイントが絞り切れていなかったことが考えられる。

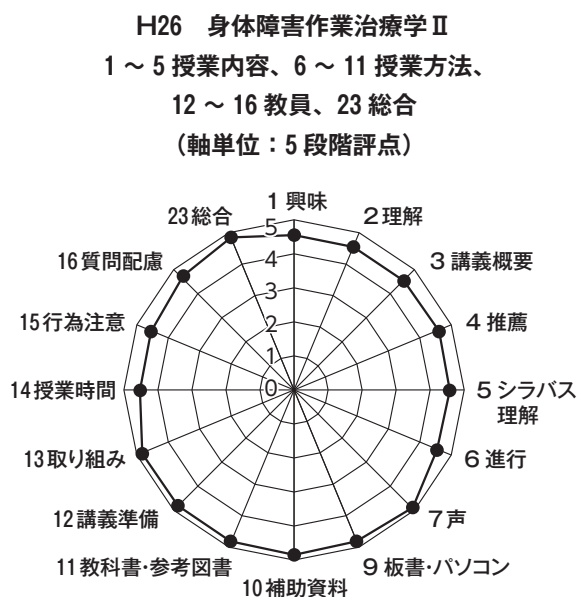
◆今後の改善に向けて

[中枢担当]

限られた授業時間で多数の知識を習得する必要がある。特に身体障害領域では“知らないと進まない”ことも多い。知識の教授と自己主導型の学習を両立しながら、限られた時間の中で効果的に進めていく必要がある。本科目にとどまらず身障系講義科目全体の時間配分の見直しを改めて行っていく。

[整形担当]

身体障害分野において疾患や治療の知識は重要ではあるが、知識を詰め込むのではなく知識の習得方法を教授する必要性を痛感した。今後については事例検討等、問題解決型の講義スタイルを取り入れ、受講者が自ら疑問を出し、教科書や文献を利用しながらの問題解決をする経験を支援していく。



◆集計データ結果について

概ね6割前後が5点、3割前後が4点、1割前後が3点という結果であった。ただし「2. 理解」のみ5点と4点の割合が逆転した。本科目では、他の講義で学んだ身体機能評価の技術習得を目指すことと、対象者に対する作業療法の流れを実践的につかむことを目的とした。まずは教員がデモンストレーションを行い、その後各グループに分かれて実践するのだが、その際3名の教員が教室を巡回し、随時質問があれば受け付けるという対応を行った。後半は上級生に模擬患者を演じてもらい、模擬患者評価をグループで行った。臨床実習に直結する技能ということもあり、学生の取り組みは非常に熱心であった。それが高い評価につながったと考えられる。

しかし前年度までは、45時間あった授業時間数が当年度より30時間に減少したため内容を省略せざるを得ない部分もあった。その部分は学生の自主的な取り組みに求めたつもりであったが、学生によっては十分に理解できず消化不良となった可能性がある。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「わからないことがあればすぐに質問できる環境だった」「実践的だったため自分の技術や知識を自覚しやすい」「自分たちのペースで学ぶことができた」「先輩を被検者にして体験できたことが良かった」と概ね好意的な意見が多かった。授業の構成自体に大きな問題はなかったようである。

一方「授業時間が短い」「十分取り組む時間が無いので前期に学びたかった」「他の課題もあり自主練習が十分にできなかった」「レポートの提出期限が早すぎる」などの否定的な意見も複数挙がった。習得すべき技術の種類に対し、授業期間の時期や短さが課題となった。

◆今後の改善に向けて

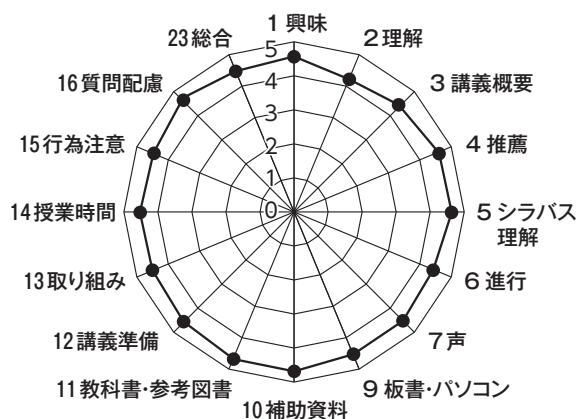
前述したとおり習得すべき技術の種類が多く、30時間の中ではすべてを網羅できない状況である。あとはいかに学生の自習に頼るかということであるが、平成27年度は本科目の大部分を前期に実施するなど、学生の意見に沿った対応を一部始めている。夏季休暇の間に積極的な自習を始められるよう、科目担当教員も学生の自習場面に立ち入りながら補習の在り方を試行錯誤していきたい。

H26 身体障害作業治療学実習

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

全体的な評価は平均④「どちらかといえば、そう思う」以上であったため、授業は概ね学生の期待に添えたものであったと考える。また、点数も高いのでうまく行えた授業の一つであった。しかし、その中でも「3. 講義概要」の評価が低かった。これは、講義の概要が広範囲に広がっており、わかりにくかったと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由記載では「理解しやすかった」「解説がわかりやすかった」「教科書に沿っていてわかりやすかった」「評価学や実習で習ったことが統合された感じ」「プリントがあり、それに沿ったものをしたことがよかった」「精神科についてよくわかった」「イメージしやすかった」などの良い評価が多く、否定的なものはなかった。

◆今後の改善に向けて

この授業は、昨年度は旧カリの60時間であったが今年度から30時間に変更した。

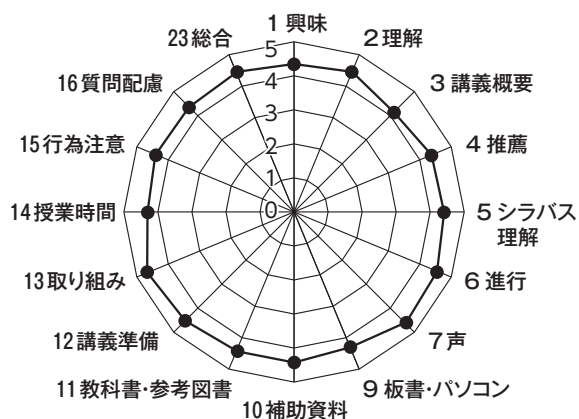
1. 30時間になったので教員主体の講義形式の授業に変更したが、出来るだけ臨床現場のことを話す時間をもうける。
2. 報告形式は残して、学生が主体的に取り組める時間を維持する。
3. 評価と治療が結びつくような授業を心がける。

H26 精神障害作業治療学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



担当教員

港美雪

◆集計データ結果について

本講義の評価結果は、平均でおよそ4を示した。本講義の参加学生は32人のうち、「興味」の項目の点数は、「1」、「2」につけた学生はいなかった。低い点数より「3」が10名、「4」が9名、「5」が13名であった。一方、「理解」の項目の点数は、「2」が1名、「3」が11名、「4」が11名、「5」が9名であり、概ね関心を持ちながら、理解を深めていたことが考えられた。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

講義に対して、良かったこととして挙がっていた意見は、「とても深くわからないこともあったが勉強になった」、「自分たちの考え方を否定せず先生自身も一緒に考えてくれた」「友達と話し合っただけで知識が深まった」「発信者が学生中心で良かった」「実践的でよかった」「内容はとても難しく理解できたかわからないですが絶対に将来に役立つものだと思います」「助言をたくさんしていただいた」「新しい見方ができた」などが挙げられた。主体的に学ぶことへの楽しさや実践につながる知識として将来につながると実感したことが推測された。一方、改善すべき提案として挙げられた意見に、「グループでの質問への対応時間が、グループによって異なっていた」が挙げられた。時間調節を丁寧にしなが、すべての学生グループの質問に返答できるように配慮する必要がある。

◆今後の改善に向けて

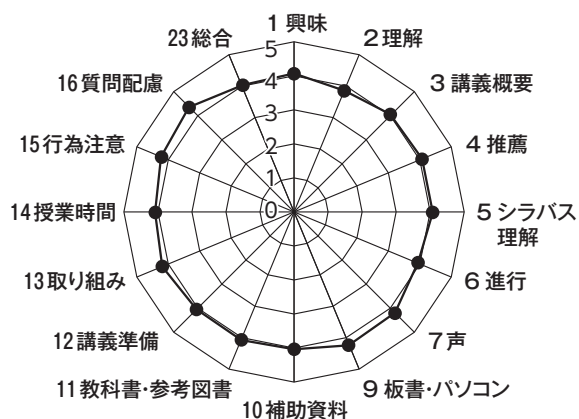
学生が主体的に学ぶことができるような授業を計画し、グループ内で、やるべきことを明確にして、答えを見つけ出す方法を今後も取り入れていきたいが、質問や説明が必要になることを事前に計画に組み入れ、すべてのグループが主体的に進めていくことができる対応をしていきたいと思う。

H26 精神障害作業治療学実習

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

ほぼ全ての項目について、90%以上の学生が「④どちらかと言えば、そう思う」「⑤そう思う」と回答していた。授業の内容については「授業の内容は、シラバスに沿ったものでしたか」の項目が、他の項目と比べて「⑤そう思う」と回答していた割合が低かった。

これは、シラバス作成後、急遽「清須市障害児クリスマス会」への参加を授業内容に含めたため生じた変更を反映しているものと考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「スライドがまとまっていて分かりやすい」「ビデオが良かった」「授業形式（1コマ目は講義で2コマ目は演習）が良かった」との記載が多くあった。一方改善点としては、発達障害作業評価学と同様、資料に記入をするポイントをたくさん作って欲しいという事が挙げられていた。

◆今後の改善に向けて

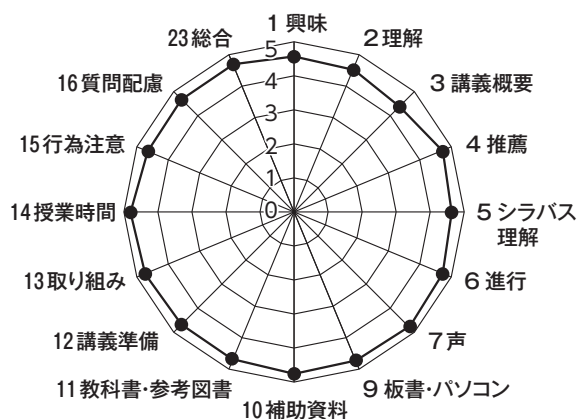
スライド、レジュメ、ビデオ教材の使用については好評を得ているため継続していきたいと考える。特にビデオ教材については学生から高評価である。発達障害は実習施設の不足もあり実際に接する機会も少ないため、疾患のイメージを補う教材としてビデオが有効に機能しているためであると考え。今年度はビデオ教材を一部の疾患のみで使用したため、今後は他の疾患でもビデオ教材を使用していきたいと考えている。

H26 発達障害作業治療学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

ほぼ全ての項目について、「⑤そう思う」「④どちらかと言えば、そう思う」と回答した学生が90%を越えていた。各項目の平均値にも偏りが無く、学生にとっては概ね満足のできる実習となったと考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「普段関わる事のできない園児と関わる事ができて良かった」「楽しかった」という記載が大半を占める一方で、「園児との接し方を学べた」「園児一人一人の成長の違いを感じた」等、実習を通じて何を学んだかについての記載は少数であった。実習全体を通して、園児との交流という「楽しい経験」に留まってしまい、そこから何かを学ぶという所まで至らなかった学生が多かったものと考えられる。

◆今後の改善に向けて

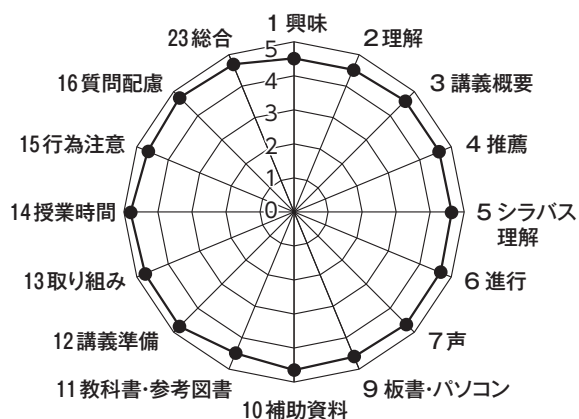
園児と楽しく交流をすることは大切であるが、その他の目的意識について学生が強く持つ事で、より意味のある実習になるものと考えられる。具体的には、人間発達の視点から園児を観察する事、園児の作業遂行を促す事のできる関わり方、コミュニケーションの取り方を学ぶ事等である。今後はこれらの実習目的をより強く意識できるように、事前ガイダンスでの説明やレポート課題を通して学生に求めていこうと考える。

H26 発達障害作業治療学実習

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

すべての項目で4～5となっており、内容・方法等に大きな問題は無いと考えられる。しかし、4.5を超えたものは少なく、改善の余地があると考えられる。

詳しく見ると「映像視覚教材（パワーポイント、ビデオなど）の使用は効果的でしたか」には『②あまりそう思わない』が2名おり、視覚教材を用いた授業の進め方に工夫が必要である。また、学生の学習態度に関する項目のうち、「この授業に対して熱心に取り組みましたか」「予習、復習などの時間をとりましたか」「この授業に休まずに出席できましたか」についても『②あまりそう思わない』が1・2名ずつおり、いかに学生に興味を持ってもらうかが重要であると考えられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

昨年同様「HDS-R と MMSE ができたことが良かった。」「実際の事例（先生の関わった人）の話がおもしろかった。もっと聞きたかった。」といった記載が複数あり、臨床をイメージしやすい内容にしたことは効果的であったと考える。

また「老年期領域に興味を持っているので、とても有意義な時間となりました。」という記載に加えて「老年期分野には全く興味がなかったのですが、今回の講義を受けて少し興味がわきました。」との記載もあり、一部ではあるが授業を通して老年期分野に興味を持ってもらえたことは良かったと思う。

さらに「考え方、感受性を学べた。」との記載もあり、認知症を含んだ老年期分野の対象者との関わり方について、本質的な物を得ることができたと感じる学生がいたことは、大きな収穫であった。

◆今後の改善に向けて

映像視覚教材の使用については、現在ほぼ行っておらず、学生からの評価にもあるように、今後は導入を検討していこうと考える。

また、興味をいかに引き出すかについては、引き続き演習を取り入れることと臨床の話題をさらに増やすこと、さらに事例を通して学生に考えさせたり、体験させるといった能動的な学習の場面を増やすように工夫していこうと考える。

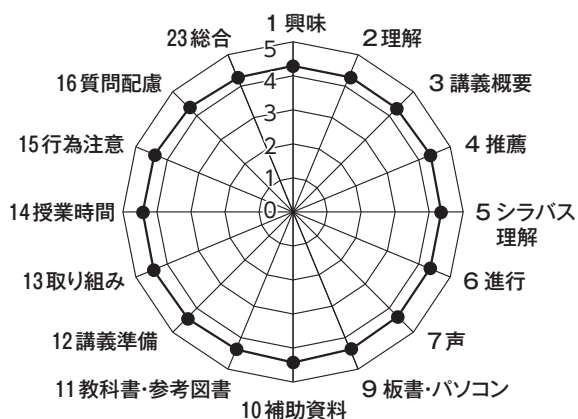
そして、高齢社会の現状と共に、認知症支援や介護予防といった地域での作業療法士の役割についても社会からの要請が高いということを伝え、学生の学習意欲の向上に繋げていきたいと考えている。

H26 老年期作業治療学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

全体的な評価は平均④「どちらかといえば、そう思う」以上であったため、授業は概ね学生の期待に添えたものであったと考える。ただ、評価の中で「1. 興味」「2. 理解」「5. シラバス理解」「23. 総合」は④ぎりぎりだった。

その原因は、この授業は作業療法における作業活動の一つである日常生活活動の概論の位置づけで、1年生の学生にとっては教科書の内容を理解することは難しかったと思われる。また、時期も1年生の前期で行うため少し早いのかもかもしれない。

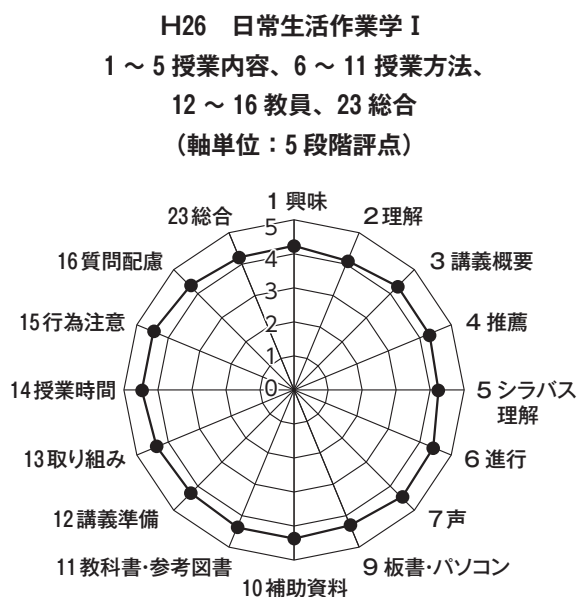
◆学生の自由記載の内容を検討した結果

自由欄の記述では、1) 感想では「理解することが出来た」「わかりやすかった」「重要なところを教えてくれた」「作業療法が少しわかった」「自分で学習が出来た」などの授業の良い点が書かれていた。反面、「難しすぎる」「テストの覚える量が多すぎ」などの点を記述されていた。2) 改善点としては「いつも同じ人が本を読んでいる」「必要のない教科書があった」という意見が聞かれた。

◆今後の改善に向けて

以上の集計データと自由記載欄の事項を踏まえて、以下のような改善を行っていきたい。

1. 次年度は出来るだけ多くの学生を指名する。
2. テスト範囲を考慮する。
3. 興味がわくような臨症的な話や理解が進むような日々の生活の中での話題を提供したいと考える。



◆集計データ結果について

学生が受け身にならないように配慮し講義を進めた。概ね4点以上であったが、「質問配慮」の項目で最も得点が高く、「講義概要」で最も得点が低かった。

「質問配慮」が高得点であった理由としては、講義後に学生から集めた質問を、次回の講義にて解説したことが挙げられる。反対に「講義概要」が低得点であったのは、質問内容に合わせて講義を変更し、当初予定していた講義の内容と変わったことが挙げられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

課題についての感想が多く見られた。「課題を行うことで自分の分からないことに気が付けた」「課題が実践的で臨床実習に役立つと思った」という肯定的な意見が多い中、「課題の量が多い」「課題の締切日が短い」等否定的な意見も見られた。

◆今後の改善に向けて

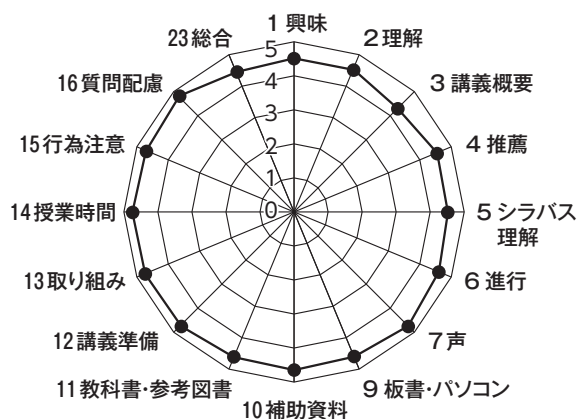
学生の質問に答える講義スタイルは今後も継続していこうと思っているが、最低限、学生に学んでほしい内容については講義開始時に学生に明示する必要性を感じた。また、課題の量について否定的な意見が見られたため、他の教科の課題量を確認しながら課題量を決めていくことが必要だと思われた。

H26 日常生活作業学Ⅱ

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

臨床実習を経験した3年生に模擬事例を依頼し、講義受講者が模擬事例を評価、治療の検討という作業療法プロセスを体験できるよう講義を進めた。得点は概ね4点以上であった。「講義概要」「進行」の項目が4点前半と低得点である理由として、学生の進捗状況に合わせて授業時間配分を変更したことが挙げられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「実際に実習を行いイメージがつかめた」「作業を考える時間がたくさんあり楽しかった」「先輩が事例であったので、実習の様子なども聞いて良かった」等肯定的な意見がある反面、「自分の苦手な所が見つかり自信をなくす」といった否定的な内容も見られた。

◆今後の改善に向けて

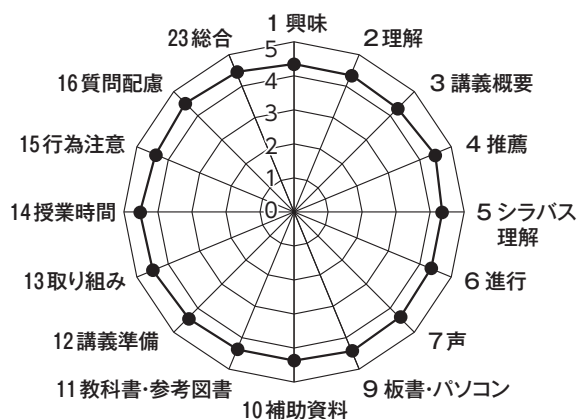
3年生に模擬患者を依頼することは、3年生自身から「振り返りとなって良かった」等の意見があり、継続していこうと考えている。学生が苦手であると感じる内容を聴取しながら補講する等、学生が課題と上手く向き合える工夫を検討していく必要性を感じた。

H26 日常生活作業学実習

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



担当教員

岡田智子

◆集計データ結果について

概ね「4」以上であったが、「声」「板書・PC」は低めであった。

「声」については学生からのコメントもあったため、後述する。

「板書・PC」については、学生に分かる程度にしか行っていないため、丁寧さに欠けていたことの表れだと思う。ただし、今年度は板書が分かりにくいというコメントは無かった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

改善すべき点として学生が記載していたことは、大きく2点あり、「声の大きさ」、「時間配分」であった。声については、たまに聞き取りにくい時があったそうである。時間配分については、「授業時間がもっと欲しい」「授業数が少ないのでパンクする」の記載があった。これは、今年度は授業の最後で簡単な演習をする為に、昨年度よりも講義スピードを上げたことによる反応だと考えられる。昨年度より、若干講義内容を減らした上でのことだったが、まだ検討が必要である。

良かった点は、「症例映像を見たり、検査法に直接触れる機会があったこと」「症例の話や例話があり、イメージしやすかったこと」が挙げられた。「興味深かった」「印象に残る説明だった」と好評価もあり、これらは続けていこうと思う。

◆今後の改善に向けて

声については、いつも意識して改善していこうと思う。来年度は学生数がさらに増える為、マイクの利用も検討する。

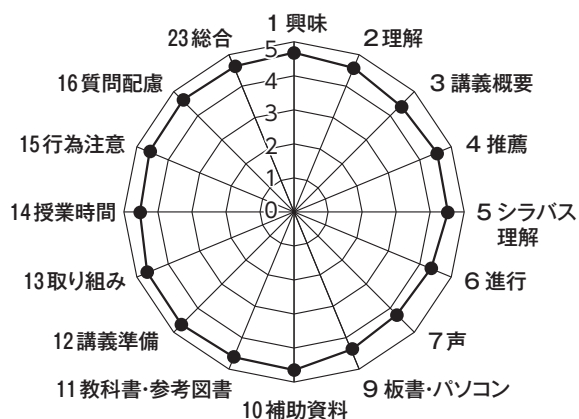
時間配分については、来年度も演習をする予定だが、その分、講義内容をもう少し絞っていく必要があるかもしれない。

H26 高次脳障害作業治療学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

総合的に平均値にはきていましたが、下記記載の通り学生個々の意見を反映させより良い講義となるよう工夫していきたいと思います。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

- テスト範囲を分かりやすくする為、小テストを入れる等改善をしていきたいと思います。
- 授業内容が広範囲なため、Point が絞れるよう工夫します。
- 実演など体験を取り入れた授業が好評なようでした。来年度も出来るだけ触れて体感できる講義にしたいと思います。
- 教科書以外の講義内容についてはプリント配布等を取り入れていきたいと思います。

◆今後の改善に向けて

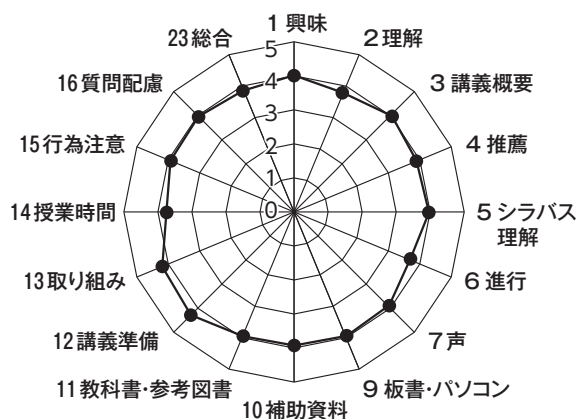
講義時間数に対して範囲が広いため、講義速度が速くなりがちになり難しい印象を受けた学生もいたかと思えます。上記にも記載しましたがPoint を絞り、臨床で役に立つよう印象に残るような講義にしていきたいと思えます。

H26 義肢装具作業療法学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

多くの項目が、平均4点前後となった。中でも「授業の内容は、あなたにとって、理解しやすいものでしたか」の項目については、特に低い得点となった。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

スプリントの製作について触れている学生が多く「実際にスプリントを作る経験ができて良かった」「スプリントを作るのが難しかった」という意見が寄せられていた。

その他、講義の進行についても触れている学生がおり「予定をわかるようにしておいて欲しかった」「授業の終了時刻がバラバラで困る」等の記載があった。

◆今後の改善に向けて

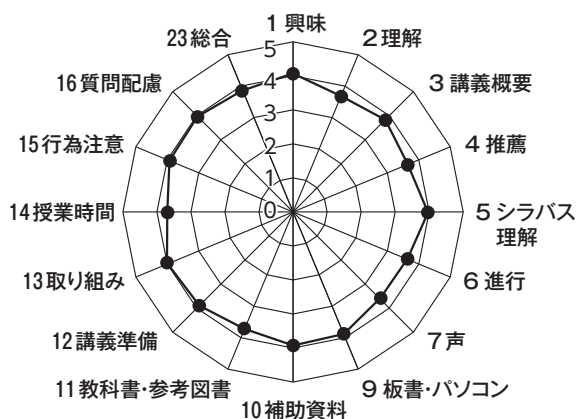
学生の要望として、特に講義の進行に関する意見が多く挙がっており今後の改善点であると言える。講義の概要をシラバスに明示し、それに沿った講義進行を行なう事、また事前の準備については早めに周知する事などが必要である。毎回の講義についても、計画立てた進行により、予定通りの時刻に終了する等の配慮が必要である。

H26 義肢装具作業療法学実習

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

講義内容は、ウェルフェアへの参加やペーパーペイシエントを用いその事例に適したリハ関連機器を検討する等、学生自身が主体的に考え学べるよう考慮した。概ね4点後半と良い評価であった。2年生前期の最初の講義であったため、受講者の意識が高かったと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「実際に考える機会が多く楽しかった」「ウェルフェアに参加し実際に福祉機器に触れられた」「見学実習で見た福祉用具について学べた」など肯定的な意見がある反面、「教科書の内容をあまりやってない」という否定的な意見が聞かれた。

◆今後の改善に向けて

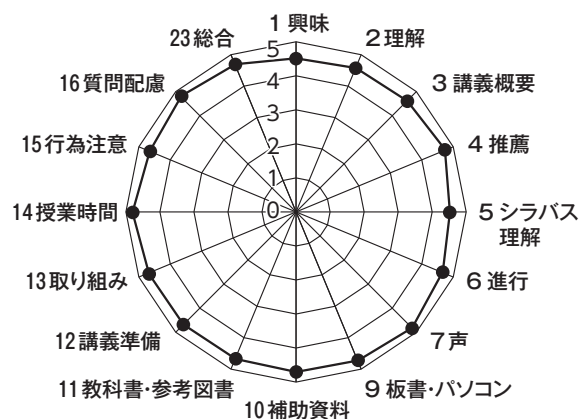
学生が主体的に学べる工夫は今後も継続していこうと思うが、教科書の利用方法について説明する必要性を感じた。

H26 リハビリテーション関連機器

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

講義の前半に座学にて地域作業療法の考え方を教授したあと、学生個々に訪問作業療法プログラムの立案をさせた。「行為注意」に関して低得点であった理由としては、グループワーク時、教員としてはディスカッションが進むことは良いと考え注意をしなかったが学生によっては講義の妨げになったと感じた者がいたことが挙げられる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

「卒業したら地域で活躍する作業療法士になりたい」「訪問作業療法士になりたい」「作業療法プロセスのイメージがわいた」等の肯定的な意見がある反面、「評価が作業に偏り身体機能が見れていないのではないかと思った」との意見も聞かれた。

◆今後の改善に向けて

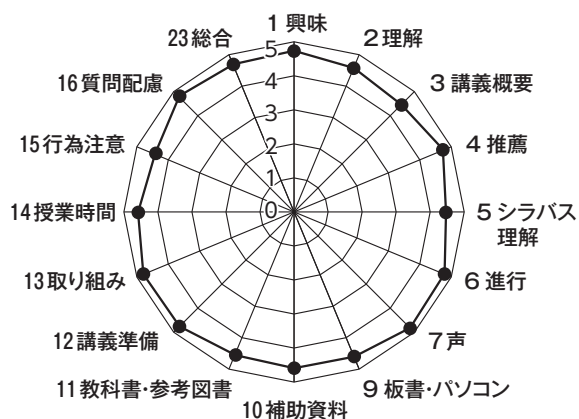
地域の作業療法において、クライアントの心身機能の改善より「環境」を変えていくことの重要性を強調したいとの思いがあり、身体機能についての評価・治療について力を入れて説明しなかった。多面的に評価・治療することの重要性を併せて伝えていく必要性を感じた。

H26 地域作業療法学

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



◆集計データ結果について

すべての項目について4～5点の評価を得ており、内容・方法に関して大きな問題はなかったと考える。

詳細にみても「プリントやビデオなどの補助資料は授業の理解を助めましたか」「教科書・授業・レジュメや参考文献は効果的でしたか」については『②あまりそう思わない』があったが、科目の性質上教科書の指定はせず、特にプリントも用意しなかったため、そのような評価であったと思われる。

◆学生の自由記載の内容を検討した結果

多くの学生が「学校では普段できない体験ができて良かった」「レクリエーションを考え作成するのは大変だったが、いい経験になった」と記載しており「高齢者の方とふれあえてよかった」「喜んでもらえて楽しかった」との記載も複数あり、科目としてねらっていた結果が得られたと考えられる。

また「グループで頑張れてよかった」「団結力がつきました」との記載がある一方、「やる人とやらない人ができて、進めていくのがとても大変だった。負担が大きい人と少ない人と差がでてしまっていた」との記載もあり、グループワークの進め方が未熟な学生の存在も伺われた。

一方「事前情報をもっと欲しい」「相手の状況がもう少し分かった上で、レクリエーションを何のためにやるのかももう少し明確にしないと、自分たちが勝手に行うレクリエーションになるだけだと感じた」との記載もあり実習の構造の限界もあるが、できるだけ情報を提供していきたいと考える。

◆今後の改善に向けて

この科目自体の教科書は指定しないが、学生自らが、関連科目（地域作業療法学・老年期作業療法学・精神障害作業評価学・精神障害作業治療学等）の学習と繋げてこの科目の理解を深めるように指導する必要がある。

また、グループワークの進め方が未熟な学生の存在を予測したうえで、教員側からも学生の状況について注意を払うとともに、グループワークそのものに関する指導も必要となってくると考えられる。

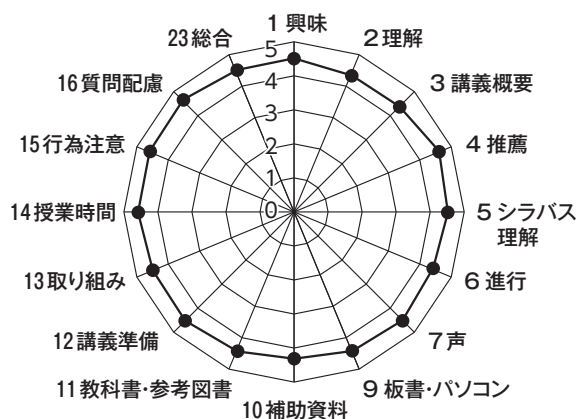
また情報に関しては、できるだけ事前に提供したいと考えるが、学生自らがレクリエーションを実施する際に、どのような情報が必要なのかを考え、行動するように促す指導も必要である。

H26 地域作業療法学実習

1～5 授業内容、6～11 授業方法、

12～16 教員、23 総合

(軸単位：5段階評点)



編集委員

舟橋 啓臣 (FD & SD 委員会委員長)

鳥居 昭久 (FD & SD 委員会)

河野 健一 (FD & SD 委員会)

堀部 恭代 (FD & SD 委員会)

清島 大資 (FD & SD 委員会)

草川 裕也 (FD & SD 委員会)

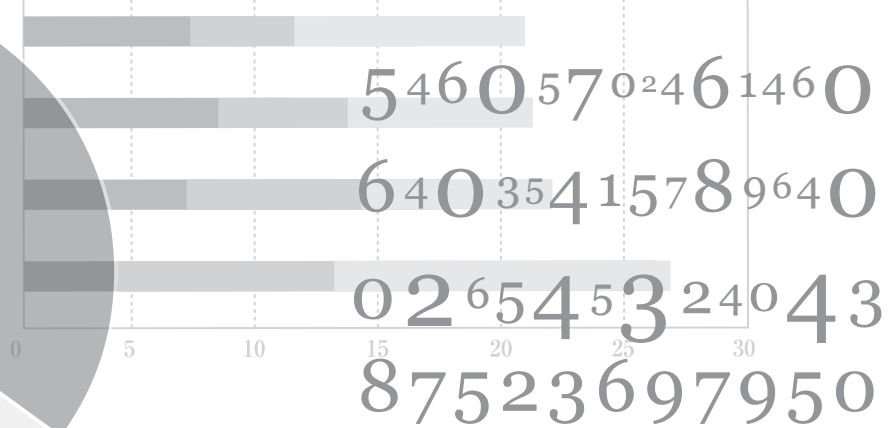
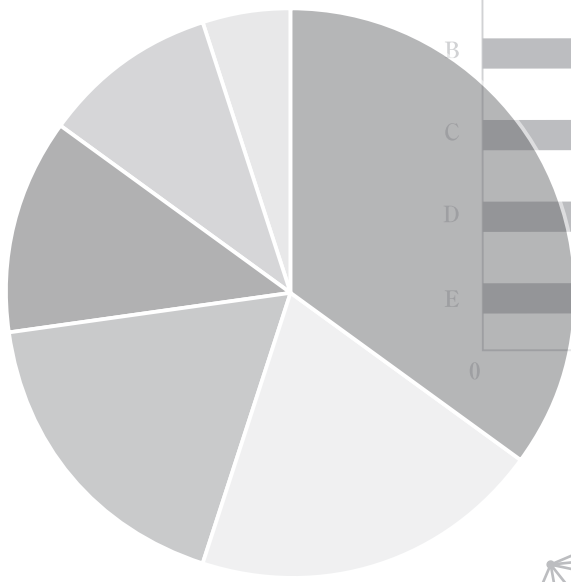
田原 靖子 (FD & SD 委員会)

松浦 智美 (FD & SD 委員会)

2014年度 学生と教員が共に前進する授業評価レポート

発行日 平成27年8月31日

発行者 学校法人 佑愛学園
愛知医療学院短期大学
〒452-0931 愛知県清須市一場519
TEL 052-409-3311
<http://www.yuai.ac.jp>



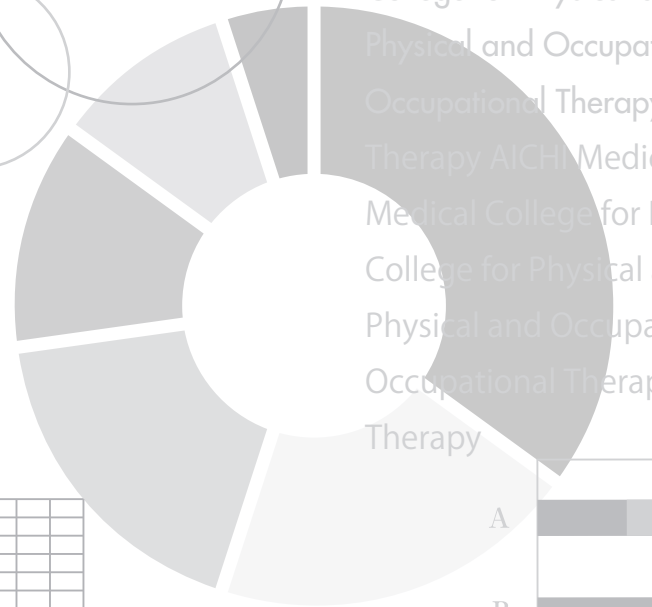
756+56584186476317354 404775
 4764355641867468371645156150
 75 006+9480+505+670+06897965
 67468 3716451+561640424+2105
 5+670+068979+651+53 317354 4
 864764355641867468 486045371
 4+2105+75006+9480 4845887+3



AICHI Medical College for Physical and Occup
 College for Physical and Occupational Therapy
 Physical and Occupational Therapy AICHI Med
 Occupational Therapy AICHI Medical Colleg
 Therapy AICHI Medical College for Physical a
 Medical College for Physical and Occupatio
 College for Physical and Occupational Thera
 Physical and Occupational Therapy AICHI Me
 Occupational Therapy AICHI Medical Colleg
 Therapy

2014

317354 4047756+56584186476317354 404775
 6+56 5841864764355641867468371645156150
 640424+2105+75 006+9480+505+670+06897965
 1+534355641867468 3716451+561640424+2105
 75006+9480 +505+670+068979+651+53 317354 4
 047756+565841864764355641867468 486045371
 6451+561640424+2105+75006+9480 4845887+3



AICHI Medical Colleg
 College for Physical o
 Physical and Occupa
 Occupational Therapy
 Therapy AICHI Medic
 Medical College for
 College for Physical
 Physical and Occupa
 Occupational Therap
 Therapy
 AICHI Medical Colleg
 College for Physical
 Physical and Occupa
 Occupational Therapy
 Therapy
 AICHI Medical Colleg
 College for Physical
 Physical and Occupa
 Occupational Therapy
 Therapy

